

慶応3(1867)年

京	都	府
<p>3・1 藪内家復旧。⁽¹⁾ 京の茶家</p> <p>3・一 南側芝居、「義臣伝・彦山権現・傾城 孝源氏」徳三郎ら。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>4・一 南側芝居、「菅原・幼稚子敵討・鷗恋 湊」市蔵ら。 同上</p> <p>4・一 四条道場芝居、「寿式三・太功記・五 大力関扉」梅之助・松緑・朝太郎ら。 同上</p> <p>6・一 道場芝居、人形浄瑠璃、「木下陰狭間 合戦・競伊勢物語・桂川連理柵」六世竹本染太夫 ・長尾太夫・津太夫・春太夫・むろ太夫・咲太夫 ・竹本山城掾・鶴沢叶・鶴沢友次郎・竹沢弥七・ 野沢吉兵衛・鶴沢時蔵・鱗糸・団六。 新京極変遷史</p> <p>9・一 四条道場芝居、「廿四孝・義臣伝・安 達原」翫雀・松之助・梅之助・松緑。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>9・一 この頃から京畿にも鳴物入りの「ええ じゃないか踊」熾烈。 岩波日本年表</p> <p>11・一 北側芝居、「狭間合戦・傾城孝源氏・ 傾城曾我譚・源平つつじ」滝十郎・延三郎・我当 ・多見蔵・哥津右衛門・奥山・右団次・源之助・ 大五郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>この年</p> <p>▷ 福知山おどりはじまる。⁽²⁾ 福知山音頭(福知山市発行)</p>		

参	考	日	本
(1)	藪内家は元治の大火で焼失、西本願寺茶道師家であった同家のこと、寺から緇熙常(書院)、須弥蔵(茶席)の移譲を受け、他は再建して旧態に復した。 京の茶家	9・一	歌舞伎各女形3世沢村田之助、脱疽でへボンの治療を受け両足切断、なおも出演。
		10・14〔11・9〕	大政奉還上表。
		12・9(慶応2)〔1・3〕	王政復古令。
(2)	藩政時代から伝わる福知山おどりは、慶応3年13代藩主朽木為綱が、藩の武士に洋式訓練をするためにつくった訓練場完成の祝賀の際、おどりの姿態が改良されて次第にひろまる。	12・25(慶応2)〔1・30〕	孝明天皇没、37歳。

京	都	府
1・3〔1・27〕	鳥羽・伏見の戦争。戊申戦争起る。 近代日本総合年表	
2・一	2世井上八千代 ⁽¹⁾ 没(78歳)。 演劇百科大事典	
2・一	北側芝居、「長柄長者鳥塚・布引・桂川」多見蔵・右団次・富三郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻	
4・一	南側芝居、「絵本太功記・襷重浮名の鯨鞘」延若・福助・右団次・翫雀・雛助。同上	
4・一	新京極和泉式部の芝居、「忠臣蔵・鏡山・戻駕」浅尾徳三郎一座。同上	
5・一	南側芝居、「鳴渡浪花の噂・結文浮名簪・隅田川花の錦絵」延若・翫雀・雛助。同上	
5・一	北側芝居、「忠臣蔵五十三駅」璃寛・駒之助・雀右衛門・おぎ野扇女。番附(池田文庫)	
5・一	和泉式部芝居、「敵討高砂松・和田合戦・隅田春・宿無団七」寿瑛・寛三郎・松三郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻	
7・一	北側芝居、「夢結蝶鳥追・隅田川続儀」右団次・松太郎・哥津右衛門・松緑。同上	
8・一	北側芝居、「鎌倉三代記・勝鬃李源氏・比翼鳥辺山」多見蔵・右団次・松緑・雀右衛門・奥山。 番附(池田文庫)	
8・一	横滨州本天神境内で壬生狂言一週間興行。 明治世相編年辞典	
9・一	道場芝居、「小倉色紙・鬼一法眼・恋飛脚」関三十郎・三樹源之助・市川猿之助・嵐璃光・三樹梅舎。 歌舞伎年表(伊原)7巻	
10・29〔12・12〕	芝居狂言など見世物に、帯刀のもの奴などが木戸銭を払わずに押入ることは、あるまじきことゆえ即時擲めとり、また追払っても乱暴するものは調べた上同断。 府令(太政官日誌 10・3)	
11・一	南側芝居、「寿式三・忠臣蔵・安達原」宗十郎・延若・福助・翫雀・雛助。 歌舞伎年表(伊原)7巻	
11・一	北側芝居、「寿式三」嵐吉万寿・尾上徳松・嵐璃之助、「姫競双葉絵双紙・お染久松色読販・道行袂白絞」中村梅之助・嵐璃寛・延三郎・翫雀・太三郎・工左衛門・大五郎。同上	
	この年	
	▷ 東征諸隊の兵士たち、「トコトンヤレ節」 ⁽²⁾ を軍歌として進軍、民間に大流行。毎日 昭43・4	
	▷ 堀内家、元治兵火に焼失した茶室露路を再興。 京の茶家	

参	考	日	本
(1)	初世八千代は幕末儒者井上敬助の妹(サト、1854年没)、近衛家に伝わる舞に郷土舞を結合し、高雅な風格ある舞を創案、井上流を創立。2世は初世の姪アヤ。金剛流能楽に私淑、現在の流風である本行舞を案出。 演芸百科大事典	7・17〔9・3〕	江戸を東京とする詔書発布。
(2)	歌詞は品川弥二郎(のち内務大臣)作、節附は祇園芸妓と云われる。「宮さま宮さま、お馬の前のヒラヒラするのは何じゃいな、トコトンヤレ、トンヤレナ」全六首、以下略。毎日 昭43・4・10	9・8〔10・23〕	明治と改元。

京	都	府
1・19 舞御覧 ⁽¹⁾ (御所で舞楽の催しあり、四等官以下判事にいたるまで、廻廊で自由に拝見、鶴肉料理と祝酒を賜餐)。 太政官日誌 1・17		
1・28 新年祭再興。 太政官日誌 1・22		
1・29 加茂行幸、27日晚から晦日まで神事。 同上		
1・一 北側芝居、「新薄雪物語・本朝廿四孝・廓文章」尾上松緑・浅尾大吉・嵐寿瑠・浅尾関十郎ら。 番附(大阪図)		
2・3 百姓町人の妻女が歌舞遊芸に携ること取締 ⁽²⁾ 。 郡・市中制法		
2・一 南側芝居、「けいせい巳入盛曾我・大経師昔曆」雛助・延若・紫若・芝蔵・宗十郎・福助・翫雀。 番附、歌舞伎年表(伊原)7巻		
2・一 南側芝居、「敵討殿下茶屋聚・伊勢音頭恋寝剣」宗十郎・翫雀・福助・芝蔵(延若抜ける)。		
4・一 北側芝居、「絵本亀山嘶・忠臣連理鉢植・加賀見山田錦絵」璃寛・雀右衛門・扇女・延三郎・沢村国太郎・坂東彦三郎・嵐大三郎・団蔵・梅之助。 番附(大阪図、池田文)		
5・一 北側芝居、「敵討高砂松・橋弁慶・銘作切籠曙」松緑・多見蔵・右団次・大五郎・我当嵐富三郎。 番附(池田文)		
5・一 南側芝居、「敵討殿下茶屋聚・伊勢音頭恋寝剣」宗十郎・福助・雛助・七賀助・紫若・芝蔵。 番付(大阪図)		
6・一 在京の狂言方一同申合せ、提携して芸道の隆盛と各自繁栄のため、式目 ⁽³⁾ を約定。 能楽古今記		
7・一 盆に少年少女が淫な歌を唱い、遊戯をすること禁止。 布令		
7・一 南側芝居、「傾城享源氏・六歌仙」市川幸団治・嵐三津右衛門・中村巴丈・実川延助。 番附(大阪図)		
7・一 和泉式部芝居、「ひらかな盛衰記」竹本さがみ太夫・小登佐太夫・大内太夫・鹿子太夫。 同上		
9・一 南側芝居、「五天笠」竹本真喜太夫・津太夫・文字太夫・三根太夫・吉田兵吉・文三・豊松東十郎。 同上		
11・一 南側芝居、「傾城英双紙・御所桜・名誉仁政録・女舞鶴・恋俳入相桜」璃寛・七賀助・延若・慶女・団二郎・雛助・雛之助。 歌舞伎年表(伊原)7巻		
11・一 北側芝居、「傾城児雷也譚話・輝虎配膳・春霞花柳踊」多見蔵・右団次・慶女。 同上		

参	考	日	本
(1) 明治元年7・17、江戸を東京とする詔書が出され、9・20 天皇帝都発東幸、12月京都に還り、明2・3・7、再び東幸のため京都を發し、還らず。		2・一	島津藩の軍楽練習生30名、横浜香妙寺に合宿し、イギリス楽長フェントンから、楽器も借り、軍楽練習。
(2) 百姓(郡中制法)、町人(市中制法)(以下同文)の妻娘共三味線舞曲等の遊芸を専らとし、遊客酒席に交り、芸者遊女等に似かよった行は堅く戒むべきこと。 郡中制法、市中制法、(原文要約)		6・17	藩籍奉還聴許。 この年 ▷ 慶喜、大政奉還して静岡に移り、親世清孝旧恩を休し、あとを追って移住。 ▷ 能楽師の大方は禄を離れ、生活困窮、一時色々の商売・職業に身を投じる。
(3) 式目七ヶ条大意要約。 1) 狂言師たちがよく相談して約定したのであるから、皆兄弟のように、日頃尋ねあい、吉兇に関しては喜樂を共にして助け合う。 2) 毎年新年会を、廻り持で、祝酒・組重・吸物の程度で催し、当番の家へは、金千疋の年玉を贈る。 3) 各家の子供の初舞台、弟子の職分に加わるときは、前もって同役中に届け、扇子一握宛を披露の印として贈り、一同からは祝儀として金二百疋を贈る。 4) 一同の吉兇事は廻章で通知し、一同から金百疋を贈る、返礼しないこと。 5) 方々え出勤する場合には、場合、場合に応じて芸格を乱さないよう、一同の名誉に拘ることのないよう考え、万一出勤先で一人でも不当の扱があれば、一同申合せ即座に退去する。 6) 楽屋では若い同役の者達は、不作法も有勝ちであるから、老分の者は楽屋を離れないで監督する、差支えあるときは次席の者へ申送る。 酒を楽屋に持参しても、これは気分を養う程度で、酒宴にならないよう心掛け、不似合な品を携帯してはいけない。 7) 仲間達の必要経費のため、毎月一軒二十五疋づつ集め、月当番で収納・記帳を担当する。 以上は堅く守って、もし違背する者は、誰でも容赦なく糺し、場合によっては仲間に入れない。 この申合せに署名花押を行った人々は下記の通りである。大蔵流茂山千五郎・和泉流三宅庄市・同 野村又三郎・鶯流板倉要蔵。同 山川助三郎・大蔵流茂山忠三郎・鶯流荒木清九郎・和泉流三宅惣三郎・大蔵流川島岸太郎・同 尾崎正作・同 島岡虎次郎・同 小島喜三郎・同八木喜三郎。 能楽古今記			

京	都	府
<p>1・一 道場芝居、「天満宮愛梅桜松・大経師昔暦」浅尾徳三郎・浅尾大吉・松若（のち我童10世仁左衛門）。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>2・一 北側芝居、「けいせい花八英・五人男容気白浪」雛助・宗十郎・七賀之助・幸団次・延若・団二郎・紫若・芝蔵・福助。 番附(大阪図)</p> <p>3・一 道場芝居、「忠臣蔵・桂川」多蔵。 同上</p> <p>4・一 道場芝居、「伊賀越・嬭山姥・伊勢音頭」関十郎・徳三郎。 同上</p> <p>5・一 南側芝居、「菅原・往古曾根崎村噂・紙古仕立・嬭山姥・彦山権現」延三郎・源之助・翫雀・彦三郎・吉三郎・梅花・国太郎・梅之助・雀右衛門・大三郎。 同上</p> <p>5・一 北側芝居、「敵討巖流島・腰越状・隅田川花御所染、都鳥名所渡」右団次・大五郎ら。 同上</p> <p>6・一 南・北の芝居焼失(両芝居とも11月復興開演。 同上</p> <p>10・一 芝居名代其外渡世の者鑑札下附。 府令勸業調書第22号</p> <p>11・一 北側芝居新築興行、「忠臣蔵・花雪恋手鑑・廿四孝・寿式三」右団次・延三郎・大五郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻、番附(大阪図)</p> <p>11・一 南側芝居改築初興行、「契情染分総・近江源氏・鐘鳴今朝噂」延若・宗十郎・多見蔵・慶女・七賀助・三右衛門・紫若。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>12・一 諸技芸師家私塾を開くものは、生徒の身元を糺し、地方官添書のないものは、入塾できない。塾生増減の明細を月末に地方官に報告。 太政官日誌</p> <p>12・16 南側芝居、「日蓮聖人御法海・給合大川誉・双蝶々曲輪日記・菅原伝授手習鑑・苅萱桑門筑紫轢・顔合里の賑」雁治郎・馬土作・百輔・京八・梅八・源三・竹八・寿作。 番附(大阪図)</p> <p>この年</p> <p>▷ 京都大阪奈良の三方楽人の代表者を上京させ、旧江戸城内の紅葉山楽人に統合、宮内省式部職雅楽部を組織。 河竹、概説日本演劇史</p>		

参	考	日	本
		2・16	梅若実、困苦の中に独り東京に留り、「弱法師」一番、装束を借りて着用、催能(居宅に、維新前から二間四方、橋掛り一間半の敷舞台を作って、ここで稽古をしていたが、争乱時にはそれどころでなく、明2になって漸くできるようになったが、装束はなく袴能をしていた)。
		9	一島津藩軍楽隊帰国。
		11・9	太政官に雅楽局設置、従前琵琶道、神楽道の大曲秘曲を相伝の家から伝授を受けていたのを廃止。 太政官日誌 11・9

京	都	府
1・一	北側芝居、「日本第一和布神楽・娘景清八鳥日記・絵本太功記・花娘昔八丈」嵐三津五郎・浅尾朝太郎・市川新樹・片岡我逸・嵐寿瑠・嵐璃光・実川若之丞・嵐国之助。番附(大阪図)	
1・一	道場芝居、「妹背山婦女庭訓・二題晰高座新作」浅尾徳三郎・嵐吉万寿・中島三甫蔵・嵐寛三郎・浅尾関十郎・市川福太郎・中村松鶴・尾上松三郎。同上	
2・一	南側芝居、「大久保昔鑑・再大蔵都花粉色」雛助・紫若・福助・慶女・雀右衛門。歌舞伎年表(伊原)7巻	
2・一	雅楽所出張所設置。太政官日誌 3・14	
4・一	道場芝居、「いろは歌誉桜花」徳三郎・関十郎。歌舞伎年表(伊原)7巻	
5・一	南側芝居、「生写朝顔話」宗十郎・慶女・松緑。同上	
5・一	北側芝居、「四谷怪談」右団治。	
10・28	普化宗廃止 ⁽¹⁾ 、宗僧は民籍編入、志望により適宜授産を計る。太政官日誌	
11・一	南側芝居、「妹背山・双蝶々」我童(興行中我童没)。歌舞伎年表(伊原)7巻	
11・一	南側芝居、「相馬太郎一代記・源平つづじ」延若・福助・慶女・七賀助・三右衛門・団次・義三郎。同上	

参	考	日	本
(1)	唐の普化和尚を鼻祖とする禅宗の一派。彼は鐺を鳴らし、その音との冥合によって禅道の妙所に到達した。張伯という者が、師事を願ったが、許されず、鐺の代りに竹管でそれに擬した。東福寺僧、心地覚心が入宋、帰国の際(建長六年)かの竹管吹簫を伝承する四人の僧を伴った。その一人宝伏という僧が、宇治の辺に庵室を結び、尺八を吹いて鼻祖の振鐺に擬した。その風を伝える者が、時と共に増え、掛絡をかけ、編笠を被り、尺八を吹いて行脚する者が増え、幾変遷を経て大正初年においてもなお見ることができた。その間鎌倉末頃には浮浪人がその風を真似、江戸時代には一時浪人の集団の観を呈し、また隠密擬装の姿もなつた。江戸時代中期には多数の流派が生じていたので、各地に本寺が設けられ、京都では鳴滝妙光寺、洛東大仏虚鈴山明暗寺がそれであった。慶長19年には、特権と便宜を附与する掟書と御条目が出された。隆盛に赴くに従って放恣横暴に流れたので、制圧の掟を数次設けて秩序を保たしめようとしたが、弘化4・12 慶長の掟書と御条目が偽作であるとして、ついに特権優遇を停止し、宗派の一つとしてのみ扱うに至った。普化宗の日本における始祖は覚心であるが、以後600年余の命脈は、明4・10、太政官達によって、断たれるに到つたのである。しかし、その後明18・1、何ら特権もなく民間に埋れた諸流派が合同して回復を計り、21年になり、教会という名称の下に組織作りを企図し、東福寺山内善慧院に明暗教会を設立し、同院住職を会長とした。次で、由良興国寺に普化教会、鳴滝妙光寺に法灯教会を設立、伽藍再建勸進の公許を得て虚無僧行脚を復活した。その姿をのちまで往還において見ることができたのであるが、虚無僧は戸毎の門口に尺八の一曲を吹いて鳥目を受けるのを習いとした。その尺八楽を普化尺八、虚無僧尺八などと称するが、明暗流・西園流・一閑流などの流派がある。現代尺八楽の主流の一つである琴古流は、普化尺八楽の直流黒沢琴古(宝永7年(1710)~明和8)が創めたものであり、それと並ぶ都山流も中尾都山が虚無僧修行の中から創始したのである。	1・14	是迄之神楽家並元楽所、今度大曲秘曲之譜返上致候上ハ、其家々に写相残置候儀、不相成候事、但、従来口伝ト称シ、伝来候儀、自今停止之事。太政官日誌 1・14 是迄心願ト称シ、猥ニ社頭ニ於テ、神楽奉納之儀自今禁止ノ事。同上 正二位、綾小路有長に、神楽大曲、譜添仰付らる。中伶人、山井景順に、神楽笛大曲、譜流仰付らる。同上 4・3 兵部省設置。薩長土の藩兵御親兵となり、薩摩藩の2隊の軍楽隊上京駐屯、フェントンお雇となる。9月同省廃止、陸海軍省設置、フェントン海軍々楽隊指揮。明治音楽史考、遠藤 11・15晚~18朝 大嘗祭執行、18豊明節会執行。 この年 ▷ 中村正直の『スマイルス、西国立志編』翻訳刊。

京	都	府
1・一 南側芝居、「けいせい倭莊子・猿曳門出颯」寿太郎・琴三郎・芝之助・三右衛門、(中村芝蔵改め寿太郎の披露興行。 歌舞伎年表(伊原)7巻		11・一 南側芝居、「信仰記・鞋補童教草」 ⁽⁴⁾ (西国立志編の内)・新織大和錦・袖商人廓話」延若・慶女・荒五郎・寿太郎・駒之助。 歌舞伎年表(伊原)7巻
1・一 道場芝居、「姫競双葉絵草紙・新板歌祭文・再春魁首我」徳三郎・寛三郎・片岡市作・寛之助・関十郎・璃橋丸・中島三甫蔵・福太郎。 番附(大阪図)		11・一 北側芝居、「新薄雪・白石譚・其粉色陶器交易」 ⁽⁵⁾ (西国立志編の内)・八重霞・造化魁躑躅」右団次・我童・多賀之丞。 同上
1・一 北側芝居、「七福神宝の入船」竹本山四郎・紋太夫・福徳来・久太夫。 同上		この年 ▷ 新京極開発。 ⁽⁶⁾ ▷ 孝明天皇姉淑子内親王、桂宮で内儀侍などを混えた能を観覧。 野々村、能楽古今記
2・一 北側芝居、「けいせい雪月花・春霞花都錦」卯三郎・多見丸・嵐珪丸・延太郎・多見太郎・市川小伝次・尾上芝三郎。 同上		▷ 博覧会開催に当り、千宗左・千宗室・千宗守・藪内紹智博覧会補助出勤就任。 博覧協会五十年史畧
3・15~5・31 第一回京都博覧会に際し都踊創始 ⁽¹⁾ 。 都踊番附、京都博覧協会五十年紀要		▷ 千宗室・都踊のため椅子式点前の立礼式を考案、芸妓に点前させる。 ▷ 千宗室『茶の原意』 ⁽⁷⁾ をあらわす。 図説茶道史
3・一 道場芝居、「八陣守護城・三世相緑の緒車・仇結萌兼言」関十郎・寛三郎・徳三郎・福太郎・正朝・璃橋丸・三甫蔵・市作。 同上		
3・一 府下諸商売調査報告 ⁽²⁾ 。 府史勸業類 3・5		
4・8 北側芝居、「惣力ヶ谷」竹本織太夫・綱太夫・和石太夫・津太夫。 番附(大阪図)		
4・一 道場芝居、「伊達姿萩燕都裙・倭仮名有原系図・花工住薦者大寄」徳三郎・寛三郎・正朝・小璃賀・関十郎・芳三郎・三甫蔵・福太郎。 同上		
5・7 管内に令し、民間盂蘭盆の流弊を禁止。 府史民俗類		
5・一 南側芝居、「敵討兄弟標・兜軍記・夏祭」寿太郎・友右衛門・福助・延若・七賀助・慶女。 歌舞伎年表(伊原)7巻		
7・9 四条南北芝居の名代人ら、虚構淫猥にわたる芝居を禁ずるお達しに添い、改正申合せを提出。 府史		
7・一 和泉式部芝居、「碁風土記魁升形・名筆反魂香・飄全法灯笼」尾上松之助ら一座。 番附		
8・10 伏見宮逝去(5日)3日間歌舞音曲停止の太政官布令府下に伝達。 布令 174号		
8・30 散楽演劇等府下技芸者に勸善懲悪を旨とするよう、教部省の達し ⁽³⁾ を布告。 布令 5・8、185号		
8・一 道場芝居、「敵討殿下茶屋聚・信州川中島合戦・神靈矢口渡」浅尾与六・正朝・片岡市作・福太郎・橋三郎・三甫蔵・朝太郎・寛三郎。 番附(大阪図)		
9・一 男芸者禁止。 布令		
9・一 和泉式芝居、「敵討御堂前・奥州安達原・隅田春妓女容性」尾上多蔵・市川鯉太郎・山下金作・嵐来芝・嵐寿狂一座。 番附		

参	考	日	本
(1) 明5・4・17~6・3まで80日間、産業振興のため第一回博覧会を、西本願寺・建仁寺・知恩院を会場として開催、榎村参事が余興を盛にして賑かにする必要を強調し、各種の余興が盛られた、都踊は附博覧(有料余興のこと)として新橋松の家席で催された。歌詞の「十二調」は榎村作、作曲杵屋正左・振付片山春子、踊の仕組、規模は大体今日のもの大差ないようであった。その他下河原芸妓連の「東山名所踊」も名を留め、宮川町・七条新地でも舞興行があった。4・1には下鴨河原で煙火、4・2~15日間安井神社で能楽が催された。 京都博覧会沿革記、日出 明30		3・21~10日間 浅草御蔵上ノ口で梅若六郎・観世鉄之丞の名で能興行広告、席料上金一分二朱・中一分・下二朱。 東京日日	
(2) 芸能に関するもの、芝居欠倉年寄2・興行席元16・芝居名代2・遊芸指南46・楽器琴三味線48・大弓楊弓場36・香具師3・猿廻1・茶道具29・芸者召抱 628・客請茶屋 1,289・揚屋 14・遊女召抱432。		3・一 教部省設置。 太政官日誌 3・23	
(3) 能狂言以下演劇の類皇を模擬し、上を褒瀆し奉り候体の儀これなきよう厚く注意いたすべきこと。演劇の類もっぱら勸善懲悪を主とすべし、淫風醜態の甚だしきに流れ風俗を敗り候ようにては、相済まず候間、弊習を洗除し漸々風化の一助に相なるよう心掛くべきこと。演劇その他右に類する遊芸を以て渡世いたし候を制外者などと相唱え候従来の弊風これあり、然るべからざる儀に候条、自今は身分相応行儀あい慎み営業いたすべきこと。		4・一 教導職を設置、教部省所管とする。 4・一 音楽歌舞、教部省管轄。 太政官日誌 4・27	5・4 芝居は勸善懲悪を旨とし、実録どおりにすることを東京第一区役所へ、守田勘弥・河竹新七・桜田治助を呼出し説諭。新聞雑誌 明5・4 5・一 教部省一流芸能人を呼出し、業体取調。 東京日日 5・25
(4) スマイルス「セルフ・ヘルプ」を中村正直が翻訳し「西国立志編」と名附けた、編中一章を佐橋富三郎が脚色したもの。佐橋はこの頃しばらく京都の作者として働き後東京に出たが、詳細不明。		5・一 音楽歌舞、教部省管轄。 太政官日誌 4・27	6・一 猿若町三座代表者を教部省に呼出し、狂言芸題帳提出し、伺の上開場のこと、開場閉場はその都度届出ること言渡。 東京日日 6・5
(5) 南側の「鞋補童教草」と同じ翻訳編中異章を同じ作者が脚色、丁度南北両座で同時に西洋物上演され、競演の形となったが、脚本はチョボ入りで旧体を出ないものであったが、翻訳もの、従って散切狂言の嚆矢である。		7・一 香具師の名称廃止。但し各人商売は差支えない。 新聞雑誌4(新聞集成)、(太政官日誌)	7・一 香具師の名称廃止。但し各人商売は差支えない。 新聞雑誌4(新聞集成)、(太政官日誌)
(6) この開発のとき、寺町通りに面し、三条四条間に北の方から誓願寺・妙心寺・安養寺・蓮寺・歓喜光寺・金蓮寺の六寺が広い境内を接してあった。いずれも天正年間秀吉の都市計画によりそれぞれの由緒を包みながら移されたものである。社寺の境内広場は、古来縁日に因んで、見世物・催ものの好適地であったが、「誓願寺には見世物小屋の興行、妙心寺には人形芝居の類(ここの塔頭誠心院は和泉式部が開いた由緒によって移建後もその名が呼ばれ、この境内の芝居を和泉式部の芝居と称した)。錦天神(明5年まで歓喜光寺と併存、5年独立、明42年寺の方は五条法国寺に合		8・一 文部省小学校に唱歌を、中学校に奏楽を置く(当分これを欠く)。 学制	8・一 文部省小学校に唱歌を、中学校に奏楽を置く(当分これを欠く)。 学制
		10・一 教部省を文部省に合併。 太政官日誌	10・一 東京、守田座、猿若町から新富町に進出。一部椅子席にするなど改良。
		10・一 東京、守田座、猿若町から新富町に進出。一部椅子席にするなど改良。	11・9 [12・9] 太陰暦を廃し、太陽暦を採用詔書公布。明5・13・3を明6・1・1とする。
		11・一 芝居鑑札制度。	11・一 東京府劇場に初めて興行税賦課。
		11・一 陸軍々楽隊設置。	11・一 陸軍々楽隊設置。

ノ併(現在の歓喜光寺)には角力場、金蓮寺(時宗四条派本山で四条道場と称された)には芝居軽業の類が興行された一 京都叢書、坊目誌) 祇園新地、四条南北の芝居、四条河原の夕涼み、祇園御旅所、祇園祭礼などの賑いの近接地である地区に、京都の賑いのセンターとなる恒常的歓楽場を作り上げること、このような構想を榎村参事が抱いたのか、その着想によって上記の寺々の境内を上地させ、それらを貫いて寺町通に並行し、その東に三条、四条間一本の新道を開き、両側を民間に安く払下げて、見世物興行場、店舗を営ませ、娯楽センター地区ができたのである。この街通りは、京極(寺町)と並行するので新京極と称せられた。(7) 茶道家元にも、遊芸稼人の鑑札を持たせるといふ布令に対し、茶道が遊芸と同視すべきものではないことを説き著わし、鑑札下附に当たらないことを主張した。これを知事に提出、鑑札は除外された。

京	都	府
<p>2・一 南側芝居、「先代萩・岸姫松・柳絲操・三番叟・嶺山姥」璃寛・璃笑・友藏・滝之助・奥山・芝雀・玉之助・曙山・七賀助。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>2・一 道場芝居、「八坂神事宵宮賑・難波合戦勝負慶」梅朝・関十郎・寛三郎・福太郎。 番附(大谷)</p> <p>3・13~6・10 第2回博覧会、御苑内侍所跡・花御殿跡・対之屋跡・馬場跡を使用して開催。附博覧(余興)には、3・16から祇園新地に新築した歌舞練場で都踊(府誌、京都新聞74号)。4・1から会期中舞楽を催す。京都博覧協会五十年紀要</p> <p>3・一 かのふのずし(狩野辻子)芝居(元誓願寺新町西入)、興行人大八木嘉七、「天正本能寺合戦・八坂神事宵宮賑」市川団三郎・坂東芝鬼藏・市川滝太郎・尾上松之助・嵐三勝・尾上多三郎・片岡嶋十郎。 番附(大阪図)</p> <p>4・1~30 建春門院前元白川邸で舞楽を奏し一般に公開(午前9~午後4時)、一曲一区切りで観覧者入替、重ねて観る者は改めて券を入手⁽¹⁾。 京都新聞68号</p> <p>4・一 道場芝居、「赤穂義士伝・隅田川都鳥一群・大西洋夢路渡海」徳三郎・関十郎・正朝・中村康之助・吉三郎・梅朝・駒五郎・寛三郎。 番附(大阪図)</p> <p>5・一 北側芝居、「日蓮聖人御法海・小票判官東街道・五大力誠緘」市川鯉十郎・片岡我童・実川八百蔵・市川猿藏・中村梅花・嵐寛右衛門・嵐団橋・尾上多賀之丞。 番附(大阪図)</p> <p>6・一 南側芝居、「忠臣銘々伝・藍桔梗夏の雁金」寿太郎・あづま・仲藏・璃鳳・松之助・団次・三右衛門・紫若・雛助・延若・七賀助。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>6・一 八坂神社祭典を7・11と18日に改定。 京都新聞</p> <p>11・一 南側芝居、「鋪革曾我・楠昔嘶・廿四孝・積情雪乳貫」延若・璃寛・福助・七賀助・荒五郎・芝雀。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p>		

参	考	日	本
<p>(1) この催しは明4から始まった由、『京都新聞』所載の「雅楽曲規則」を下記する。 (-) 去辛未ノ年ヨリ雅楽盛大ニ行ハセラルベキ御趣意ニテ四民共ニ広く伝習ヲ差許サレタリシガ今又允准ヲ得テ来ル四月一日ヨリ三十日ノ間建春門院前元白川邸ニ於テ舞楽ヲ奏シ衆庶ヲシテ縦観セシムル者ナリ。 (-) 舞楽ハ午前第九時ニ始リ午後第四時ニ撤ス (-) 舞楽ハ一日間八曲 万歳楽 延喜楽 賀殿 太平楽 陵王 迦陵頻 地久 陪臚 納曾利 胡蝶 散手 春庭花 抜頭 貴位 白浜 還城楽ヲ奏シ一曲ヲ以テト切りトナス故ニ一曲終レバ更ニ入替スベシ其儘次ノ曲ヲ観ント欲スル者ハ必ズ通券ヲ持ツベシ嬰兒ハ之ヲ用ヒズ (-) 衆庶ノ来リテ之ヲ観ント欲スル者ハ必ズ通券ヲ持ツベシ嬰兒ハ之ヲ用ヒズ (-) 券ヲ見テ門ヲ入レ券ヲ収テ門ヲ出ズ若シ遺失スル者ハ更ニ一枚ヲ求メテ償フベシ。 京都新聞68号</p>		<p>5・一 庶民の神楽・舞楽の伝習自由となる。 11・一 東京守田座「河竹黙阿弥、東京日日新聞(鳥越甚門)」左団治・翫雀・秀調ら一座東京においての散切狂言初演。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p>	

京	都	府
<p>2・一 南側芝居、「八陣・競伊勢物語・桜鏝恨鮫鞘・咲前左倉曙・芦屋道満」竹本山四郎の人形浄瑠璃。歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>3・一 道場芝居、「播磨瀧雪曙」徳三郎・吉三郎・梅朝・駒五郎・寛三郎・関十郎・正朝・三甫蔵。同上</p> <p>7・一 南側芝居、「契情児雷也譚話・義臣伝・彫刻左小刀」橋三郎・松三郎・七賀助・梅太郎・団作・延三郎・三右衛門・延若・荒五郎。同上</p> <p>7・一 北側芝居、「嶋廻月弓張・恋女房染分手綱・源平布引滝・雪景色廓賑」璃寛・駒之助・寿三郎・曙山・大谷広右衛門・嵐徳右衛門・八百蔵・中村賀津右衛門・三樹源之助・嵐駒之助・嵐団橋・実川勇次郎・市川九蔵。同上</p> <p>7・一 吹矢、楊弓、大弓等渡世のものが景品を出し、博奕に類する行為禁止。布達 274号</p> <p>8・一 府下劇場寄席調査⁽¹⁾(鑑札下附のため)。布令</p> <p>12・一 南側芝居、「千石積湊大入船・男競三国湊・近江源氏・四季詠名所往来」橋三郎・福助・延若・璃寛。歌舞伎年表(伊原)7巻</p>		

参 考	日 本																												
<p>(1) この調査で劇場寄席数は次のように挙っている、</p> <table border="0"> <tr> <td>演劇小屋</td> <td>4カ所</td> </tr> <tr> <td>下京拾五区四条中之町</td> <td>2カ所</td> </tr> <tr> <td>〃 六区四条道場</td> <td>1カ所</td> </tr> <tr> <td>〃 六区中筋町</td> <td>1カ所</td> </tr> <tr> <td>諸興行席</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上下京</td> <td>98カ所</td> </tr> <tr> <td>伏水</td> <td>5カ所</td> </tr> <tr> <td>山城郡中</td> <td>2カ所</td> </tr> <tr> <td>丹波園部</td> <td>1カ所</td> </tr> <tr> <td>楊弓吹矢打毬之類定席</td> <td>95カ所</td> </tr> <tr> <td>内上下京</td> <td>86カ所</td> </tr> <tr> <td>伏水</td> <td>7カ所</td> </tr> <tr> <td>山城淀</td> <td>1カ所</td> </tr> <tr> <td>丹波亀岡</td> <td>1カ所</td> </tr> </table> <p>(臨時に社寺境内その他仮小屋で興行のものは、調査外)。府史警保類23号</p> <p>12月、以上の内常設小屋を建て、櫓を揚げ、演劇興行を許可したのは、四条南北芝居の2カ所と、新京極道場と大黒座の2カ所であった。布令</p>	演劇小屋	4カ所	下京拾五区四条中之町	2カ所	〃 六区四条道場	1カ所	〃 六区中筋町	1カ所	諸興行席		上下京	98カ所	伏水	5カ所	山城郡中	2カ所	丹波園部	1カ所	楊弓吹矢打毬之類定席	95カ所	内上下京	86カ所	伏水	7カ所	山城淀	1カ所	丹波亀岡	1カ所	<p>5・一 東京、沢村座の番附に棧敷代、上等一円八十五銭、中等一円四十銭、高土間上等一円七十銭、中等一円三十銭、平土間上等一円五十銭、中等一円十銭と記載、今までは銀何匁と称して来たが初めて円・銭に改良。</p> <p>7・一 東京に河原崎座新築落成、市川三升、九代目団十郎襲名し座主となる。</p> <p>12・13 式部寮伶人伶員等、歐洲楽研究申付け、海軍省において伝習すること。太政官日誌 12・13 (雅楽課では海軍々楽長中村祐庸を聘し、洋楽を伝習。)</p>
演劇小屋	4カ所																												
下京拾五区四条中之町	2カ所																												
〃 六区四条道場	1カ所																												
〃 六区中筋町	1カ所																												
諸興行席																													
上下京	98カ所																												
伏水	5カ所																												
山城郡中	2カ所																												
丹波園部	1カ所																												
楊弓吹矢打毬之類定席	95カ所																												
内上下京	86カ所																												
伏水	7カ所																												
山城淀	1カ所																												
丹波亀岡	1カ所																												

京	都	府
<p>1・一 北側芝居、「播磨渦雪囃・芦屋道満大内鑑・道行信田妻」多見蔵・璃寛・右団治・八百蔵・尾上多賀之丞・中村歌津右衛門・三樹源之助。 番附(館蔵)</p> <p>2・一 道場芝居、「傾城品評林・義士銘々伝・御所桜堀川夜討・廓文章」中村芝雀・嵐橋三郎・正朝・荒五郎。 新京極変遷誌、石井琴水</p> <p>3・1～6・8 第四回博覧会附博覧として、大宮御所に洋風影戯場設置、先斗町歌舞練場新築鴨川踊ここで開催、各遊廓舞妓数十人博覧会場練歩。 博覧協会五十年紀要</p> <p>4・一 南側芝居、「忠臣蔵・近江源氏・兜軍記・二人道成寺」正三郎・末三郎・多見之助・卯之助・関三郎・八百三郎。歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>4・一 身振狂言詮議の筋⁽¹⁾があるので今後差止。一時生活のため婦女の演劇営業を願うものは実情取調べて許可し、取締規則は堅く守るようにすること。ついで、同月許可の達出る。府庁文書</p> <p>6・一 道場芝居、「新開早学文・義経千本桜・箱根靈験夔仇討」市川家若・嵐徳栄・尾上多見蔵・阪東芝鬼蔵・尾上梅三郎・大谷友之丞・嵐寛枝・浅尾朝松・浅尾滝十郎・浅尾滝之助・阪東竹五郎・浅尾関太郎・大谷鬼造。 新京極変遷誌、石井琴水</p> <p>7・一 南側芝居、「敵討御堂前・新聞卅三番順拝事件」寿恵太郎・馬太郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>9・一 南側芝居、「天満宮菜種御供・極彩色娘扇」福助・紫琴・冠十郎・市十郎・雁正・璃鳳・三右衛門・延若。同上</p> <p>12・一 南側芝居、「絵本太功記・散書愛度かしく、恋娘昔八丈・三代記・廓文章」延三郎・紫琴・三五郎・市十郎・與六・正朝・源之助。 同上</p> <p>この年 ▷ 北桑田郡弓削村に芝居小屋あり、村の経営基本財産蓄積のため売却。 日出 明43・2・26</p>		

参	考	日	本
(1)	府は身振狂言について、「婦女子共俗に首振と唱え、浄瑠璃に合せ、身振技芸をするのは、言葉が発すべきところを身振でするのは健康に害はないか、ありとすればどの程度か、また声を出すとき、男子俳優と同じように屢々大声を出すことも、また声を出すとき同様のこととならないか」と質疑文を療病院へ出し、同院教師ヨンケル氏に尋ねてほしいと照会した。療病院医局から市政庶務課への回答文に、「慣習ならば健康上害になることはなからう」とあった。これによって演劇規定を守り、心得違いのないよう取計い許可になった。	1・一	東京守田座、株式組織となり、新富座と改称。 1・一 俳優税金、上等5円・中等2円50銭・下等1円・劇場附茶屋1円月税賦課。 東京府令 4・一 式部寮、宮内省に附属。 太政官日誌 8・4 12・一 宮内省式部寮、正院に附属。 太政官日誌 12・2

京 都 府
<p>1・一 北側芝居、「四季模様白縫譚・今昔相宿嘶・所作事戻り駕」八百蔵・右団治・源之助・片岡我久蔵・寛右衛門・駒之助・嵐団之助・中村友三。 番附(大阪図)</p> <p>3・15~6・22 第5回博覧会、売店(会場仙洞御所)に多見蔵・璃寛・延若・右団治・宗十郎・仲助その他が、鬢付油・紅粉・白粉・髪付・鬘括・手拭・簪・扇・団扇・頭痛膏等を売出す。 博覧協会五十年紀要</p> <p>3・一 南側芝居、「傾城廓船謡・明烏積白妙・国姓爺・唯先斗書売暗誦」多賀之丞・福助・千鳥・奥山・田之助・家橋・豊作・荒五郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>4・一 北側芝居、「女敵討草履間違・鬼一・千両幟・平井権八吉原街」芝蔵・玉蔵・大吉・珊瑚郎。 同上</p> <p>6・一 南側芝居、「双葉絵草紙・国姓爺・鬼一・伊勢音頭」福松郎・多見之助・玉太郎・八百丸・延丈。 同上</p> <p>6・一 北側芝居、「赤穂義士伝・大経師昔暦」三榎梅舎・浅尾大吉・中村金十郎・中村珊瑚郎・山下金作・中村芝蔵。 番附(館蔵)</p> <p>6・一 この頃新京極興行場、芝居3座・浄瑠璃席3軒・軍書講談落語席6軒・浄瑠璃身振狂言3軒・見世物12軒・大弓9軒・半弓3軒・揚弓15軒。 郵便報知 6・12</p> <p>7・一 馬場芝居、興行人宇治嘉太夫、「御堂前・夢鮫鞘・名玉筑紫礎・岩井風呂」梅朝・珊瑚郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>8・一 馬場芝居、「千手護助劔・夢結蝶鳥追」梅朝・珊瑚郎。 同上</p> <p>9・一 南側芝居、「相生源氏高砂松・鐘もろとも夢鮫鞘」翫雀・あづま。 同上</p> <p>10・一 道場芝居、「いろは物語・茜指緑色帯」市川市鶴・嵐徳二郎一座(名古屋580円級の俳優。) 同上</p> <p>11・一 南側芝居、「敵討浦朝霧・日高川紀伊国名所・恩愛雪宗清・東京土産綾白糸」訥升・八百枝・松太郎・大吉・源之助・八百蔵。 同上</p> <p>この年 ▷ 新京極六角上ル西側南角(現ピカデリー)に杉本五兵衛夷谷座建設開場。</p>

参 考	日 本
	<p>3・一 フェントン、雅楽稽古所に出勤。</p> <p>4・一 岩倉邸で行幸能。</p> <p>9・一 道頓堀に戎座開場。</p> <p>9・一 東京府寄席の演劇類似行為禁止。 東京府 甲第103号(東京曙 明治9・9・25)</p> <p>9・一 にわかなど一般の定席で照葉狂言興行許可していたが近来歌舞伎同様の仕組をするものがある所以今差止。 大阪府 地175号(浪花新聞 明治9・10・4)</p> <p>11・28 新富座焼失。</p> <p>11・一 雅楽稽古所で最初の洋楽奏楽。</p> <p>12・31 中村座・村山座類焼。</p>

京	都	府
<p>1・一 南側芝居、「八陣・傾城青陽鶴・伊達娘東京錦絵・道成寺・腰越状・彫刻左小刀・鬼一法眼」芝翫・訥升・芝三郎・児太郎・源平・大三郎・蔦之助・菊之助。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>2・28 東向芝居、後狂言に西京新聞4日報道のお光清次郎情死話を脚色(作者佐橋長三郎)「濡逢見勢田泡雪」上演。 西京新聞 3・9</p> <p>2・一 岩神座芝居、昼「曾我物語」夜「大阪島仁雇人駒吉が主殺し」(俳優従来の通り一未詳)。 西京新聞 2・23</p> <p>3・8 南側芝居、「一谷・双蝶々・鎌倉山・六歌仙姿粉」芝翫・訥升・芝三郎・鰻十郎・菊之助・大三郎・喜代三・児太郎・芝五郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>3・17~3日間 祇園新地温習会、(地唄・舞・囃子)。 西京新聞 3・13</p> <p>3・20 北側芝居、「天満宮菜種御供・腕競八島譚・往古曾根崎村囃」飛鶴・寿三郎・延三郎・若松・団治・文五郎・璃三郎・友治・滝十郎・正朝・長蔵。 西京新聞 3・16</p> <p>3・一 東向芝居、「敵討岩見重太郎・布引滝・八坂神社開花囃」寿恵太郎・関太郎・梅朝・金作・璃寛・重三郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>6・一 南側芝居、「ひらかな神靈佐倉曙・増補布引滝」人形浄瑠璃一座。 同上</p> <p>6・一 北側芝居、「恋女房・女護島・時得物網打潮先・会稽曾我恵末広」紫金・嘉七・飛鶴。 同上</p> <p>7・一 北側芝居、「伊勢音頭・蘭蝶」雁治郎。 同上</p> <p>7・10~18 祇園町練物挙行。(10日雨天にかかわらず大変な賑い、地獄太夫の打掛の地獄絵は鈴木百年の墨絵)。 大阪日報 7・14</p> <p>9・一 牧野省三出生。 回想マキノ映画</p> <p>10・一 南側芝居、「鬼一法眼・置土産今織上布・同計花の吉野山」半若・八百松・右若・小多キ・橘久之助・市蔵。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>11・1 千宗左、京都女学校および京都女紅場の食礼教師に就任。 茶道辞典</p> <p>11・一 京都女学校『唱歌』初篇刊。(地唄を教育的に改良)。 近代日本総合年表</p> <p>12・1 北野神社献茶第1回挙行、藪内紹智奉仕。 京の茶家</p> <p>12・1 表千家碌々斎宗左、北野三十本を天満宮に寄進⁽¹⁾。 茶道辞典</p> <p>12・一 南側芝居、「(小団次13回忌追善興行)黄門記八幡大藪・当の高音発響矢・手向龜七種の高教」右団次・団之助・鰻十郎・真三郎・鰻太郎</p>	<p>・駒之助・鬼丸・蔦之助・多賀之丞・八百蔵・福太郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>12・一 北側芝居、「けいせい雪月花・吃又平・重井筒・^{ひばり}鶴山姫捨松・男作五雁金」太郎・橘三郎・延三郎・和歌大夫・荒五郎・芦雁・雀右衛門・璃寛。 同上</p>	

参	考	日	本
(1)	表千家七世如心齋が、北野社林静坊の鎮守社大破の修理費のため茶杓30本を寄進したのに始まる30本茶杓の寄進行事。	2・一	新富座西南戦争劇黙阿弥作「西南雲晴朝東風」初演80日間大入を記録。
		4・一	各都市劇場の多く西南戦争劇流行(東京新富座を始め、四谷桐座、大阪戎座など、金沢の劇場2ヶ所では共同狂言興行。朝野新聞 4・9
		6・一	新富座本建築落成、7、8日開場式。団十郎・菊五郎・左団次出勤、顯官紳士千余名招待。はじめてガス灯設備。8月夜興行開場。
		7・一	三世沢村田之助没。34歳。
		10・一	仮名垣魯文はじめて「活歴」の語を使用。10月新富座に「二張弓千種重藤」上演に対し、団十郎の改良演技について魯文が「かなよみ新聞」で「活歴史」と冷評。活歴劇一つの範疇となる。
		11・一	雅楽稽古所の練習一般公開。 近代日本総合年表

京	都	府
<p>1・26 北側芝居、「袖懐紙金沢日記・油商人廊話」福助・延若一座。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>1・一 南側芝居、「通俗浅間嶽・高根雪伊達実記・花靱鼻負後大倉・隅田春芸者容性」右団次・団之助・鰻十郎・駒之助・鬼丸・薫之助・源之助・延五郎・多賀之丞・八百蔵・福太郎。 同上</p> <p>2・一 南側芝居、「高根雪伊達実記・おそめ久松色読販」右団治・八百蔵・鰻十郎・駒之助・源之助。 同上</p> <p>3・一 東向芝居、「今昔噂大汐・近江源氏・伊勢音頭」仙昇・竹之丞・璃雀・市雀・美寛・梅朝。 同上</p> <p>4・一 東向芝居、「宇都宮錦釣衾・貞操競文武陣立・大和土産三勝櫛」3月のとをりの顔振。 同上</p> <p>6・一 コレラ流行、予防のため諸興行停止。8月まで。 府庁文書、布達要約</p> <p>6・一 女学校生徒に弦歌を授業、幾山福栄を教師に任命。(明15・9 辞職)。 府立学校沿革誌</p> <p>6・一 南側芝居、「忠臣銘々伝・川中島・鳥追お松の聞書」吉三郎・男女蔵・徳丸・珥丸・百百之助・松鶴・歌女太郎・我蔵・薫次郎・右若・源之助。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>6・一 東向芝居、「大岡智仁誉・名玉栄紫礎・金瓢出世鑑・夢の鮫鞘」仙昇・璃雀・梅朝。 同上</p> <p>10・一 女学校生徒に花道授業、池坊専正を教師に委嘱。 府立学校沿革誌</p> <p>10・一 東向芝居、「十二時義士廻文・鳴尾渦婦女白浪」仙昇・寛治郎・璃雀。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>10・30 池坊専正、府女学校花道教師就任。(～明20・4・30)。 府立学校沿革誌</p> <p>11・7、14 祇園祭コレラのため延期し、この日挙行。 日出 明治19・11・18</p> <p>11・一 東向芝居、「花舞台清水群参・高蒔絵色嶋台」右団次・鰻十郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>12・一 南側芝居、「嵯峨奥山曙草紙・和田合戦女舞鶴・翼蝶色山崎」嵐橋三郎・梅太郎・珊瑚郎・坂東太郎・坂東橋三郎も一座。 同上</p> <p>12・一 北側芝居、「敵討会稽梅・挟間合戦・艶娘錦絵姿」中村嘉七・福助・実川正朝・飛鶴福平・雁正・雀松・浅尾浅太郎・実川新四郎・沢村千鳥・多見蔵石川五右衛門で一世一代。(先代福助13回忌)。 西京新聞 12・3</p> <p>12・一 道場芝居、右団次一座。 朝日新聞 12・4</p>		

参	考	日	本
		<p>2・一 「歌舞伎新報」創刊。</p> <p>2・23 前田正名、滞仏中、日本の風俗什器等紹介のため戯曲「日本美談」を、忠臣蔵の筋をかりて作り、パリ、アンテルナショナル座で上演。(帰国後、明13・7 邦文訳発表)。 明治文化全集12</p> <p>4・一 中村宗十郎(藤井重兵衛)大阪米商山脇某と協合し、5・2 麴殻町に米商一等仲買の店を開く。 郵便報知 4・30</p> <p>7・8 アメリカ米大統領、岩倉具視邸で観能。7・16日には新富座で観劇。</p> <p>8・一 12世守田勘弥没。34歳。</p> <p>10・一 文部省に音楽取調掛設置。</p> <p>11・一 雅楽課有志「洋楽協会」設立。</p> <p>この年</p> <p>▷ 女学校唱歌2編出版(主として黒髪・五所車など地唄の有名なものを改訂美化したもの)。 明治音楽史考、遠藤</p> <p>▷ この頃三遊亭万橋「ヘラヘラ踊」始める。</p> <p>△ 源氏節芝居抬頭。</p>	

京	都	府
1・一 東向芝居、「鏡山錦艶葉、緑糸色緒巻」仙昇・金十郎・友松・璃雀・小六・梅朝ら人気。番附(大阪図)、西京新聞 1・10	5・一 稲荷祭14日、今宮祭15日、上御霊祭18日に府庁休暇。日日新聞 5・2	6・11 北側芝居、迷子札裁断柱礎(錦天神前から品川に亘る世界)・総合太功記・忠臣真葛囃・袖浦郷錦絵」中村嘉七・嵐璃寛・中村福助・中村飛鶴・市川市十郎・実川正朝・市川若松・実川雁正。番附(大阪図)、西京新聞 6・1、日日新聞 6・8
1・一 南側芝居、「敵討湖水囃・ひらがな・伏見街道噂聞書」飛鶴・荒五郎・百々之助・狂丸。歌舞伎年表(伊原)7巻	6・一 道場芝居、養老滝太郎・滝五郎一座の手品興行。西京新聞 6・4	7・一 祇園祭経費氏子負担、各町1円宛であったが物価騰貴の折本年から1円50銭に改訂。日日新聞 7・7
1・一 道場芝居、「妹背山・堀川・石井常右衛門」右団次一座。同上	7・一 南側芝居、大阪義大夫興行。日日新聞 7・1	7・一 新京極蛸薬師新席福之家、浄瑠璃興行、「難波戦記勝負巻・小野道風青柳硯・心中曾根崎後囃・初舞屋三番の粧」市川小富・中村駒栄・市川小照・小定・小常・小松・糸松・沢村小国。番附
1・一 落語家武田亀太郎(木屋町二条)笑福亭木鶴と改名。西京新聞 1・24	2・1 道場芝居、尾半一座の俄開場、人気上昇。日日新聞 2・4・19	8・一 道場芝居、「道成寺現在蛇鱗・二筋道四輪三暮」片岡十蔵・嵐吉太郎・坂東寿昇・中村翫朝・市川家若・中村駒四郎・尾上梅作・市川鯉三郎。番附(大阪図)
2・14 日々新聞に新京極景況記載。 ⁽¹⁾	2・一 北側芝居、「鎌倉三代記・けいせい品評林・鼠小紋吾妻新形」延若・多見蔵・福助・延三郎・紫琴・嘉七。歌舞伎年表(伊原)7巻(非常の大入、昨年安田善次郎が興行、今回2度目の興行。日日新聞 2・20	8・一 北側芝居洋風に改築の由、大阪日報 8・22 9日から市十郎・巖笑・若松・芝鶴・嵐みんしら納涼芝居。西京新聞 8・6
3・一 祇園歌舞練場で開催の都踊近年稀な大入、連日観覧券売行1,300枚を下らず、全期間を通じ、26,000枚余。京都日日 4・25(5・20日島原太夫道中博覧会場を練る。)博覧協会五十年紀要、日日新聞 5・20	3・一 道場芝居、「伽羅先代萩・隅田川統佛・近江源氏先陣館・棲重関山夜衣」福松・高三郎・中村高助・中村福栄・中村福之丞、片岡みどり。番附(大阪図)	9・一 伏見伯耆町に演劇場一ヶ所あり、興行なく設置。大阪日報 9・15
4・一 新京極蛸薬師角、太田権七から「演劇雑誌」(月3回、1部3銭)発刊。日日新聞 4・2	4・一 新京極中筋町に間口28間、奥行20間の身振狂言常席小屋新築、20日上棟式。日日新聞 4・30	9・一 南側芝居、「日蓮上人御法海・彦山・有夜閑松の月影・真似三筋拙猿智」猿之助・雁治郎・芝鶴・美寛(雁治郎南芝居初舞台)。歌舞伎年表(伊原)7巻
4・一 道場芝居、竹沢万治の曲独楽興行、人気上々。日日新聞 4・11	5・20 右団次一座博覧会場、醒花亭前に仮舞台設け手踊り、巖笑「六歌仙」・大三郎「梅の春」・助蔵「椀久」・右団次「四季」演舞・見物立錐の余地なし。日日新聞 5・22	11・25 北側芝居、「泉水月写仏・桂川連理柵・廿四孝」多見蔵、延若、改築舞台開。同上
5・一 南側芝居、「神童菅原道実記・近世葛飾新説話」右団次・団之助・鰻十郎・巖笑・猿笑・駒三郎・助蔵・八百蔵。歌舞伎年表(伊原)7巻 近来にない人気西陣方面でも見逃せない芝居と評判。日日新聞 6・6	5・一 東向芝居、「再梅鉢金沢評駢・近世葛飾新説話」仙昇・叶昇寿、6月嵐和太夫出勤、大人気。歌舞伎年表(伊原)7巻、西京新聞 6・4	11・一 南側芝居、「忠孝誉二街・金毘羅御利生記・霜夜鐘」猿之助・璃寛・璃笑・正朝・姉川仲蔵・芝鶴・和歌太夫・みんし。同上
5・一 松林伯円東京から来演。西京新聞 5・29		11・一 東向芝居、「金鳥玉兎倭入船・文明開化の入口・霜夜鐘」市川白猿・仙昇・寛次郎・十蔵・正三郎。同上
		12・一 南側芝居、「御文章石山軍記・花魁苔八総・瓢般若湯汲養老」右団次・団之助・鰻十郎・嘉七・助蔵・八百蔵。同上
		この年 ▷ 池坊七夕会秋季に開催。いけ花歴史年表 ▷ 北野神社献茶祭保存会設立。図説茶道大系

参	考	日	本
(1)	1、2月上り高。	1・一	新富座で「記者招待」始まる。
新京極西口札所三十ヶ所生人形	{1.1~31 {2.1~11	円 766.50.0 183.00.0	3・2 警視庁第二課へ寄席年行事を呼出し、寄席で興行する技芸科目を下記の種目に決め、4・1から実施の旨組合中へ周知させるよう口達。軍談講釈・落語・浄瑠璃および唱歌・写し絵・手品・音曲・操人形。朝野新聞 3・4
道場俄興行	2.1~11	253.82.7	3・2 アメリカ人メーソン、音楽取調掛教師として来日(4月東京師範学校・同附属小学校・東京女子師範学校・同附属小学校・同附属幼稚園で唱歌教授)。上真行・奥好義・辻則承唱歌と管絃楽伝習・秋、芝祐夏・多久随も参加。
東向	{1.1~31 {2.1~10	1,110.91.5 506.46.9	7・一 大阪俳優取締を選定。取締4名、中村嘉七・実川延若・(尾上多見蔵 老齢のため右団次を繰上げ)・嵐璃寛。朝日 7・29
夷谷座	{1.1~31 {2.1~9	408.64.5 119.02.0	9・一 音楽取調掛伝習生30名募集、10月22名許可。
女浄瑠璃	1.1~31	85.62.0	10・一 「君が代」の雅楽調による作曲を、宮内省楽師奥好義・辻則承・上真行の3人が各自行ったが、楽長林広守は審査の結果、奥好義のを撰定。これに、海軍々楽隊雇教師エッケルトが洋楽器演奏ができるよう編曲。11・3日皇居で演奏。(ドイツ人エッケルトは3月招聘)。
新松鶴席	{1.1~31 {2.1~9	221.45.0 45.70.0	10・一 能楽復興のため、九条道孝ら5人発起、「能楽社」設立。
講談千切屋(中之町)	1.1~31	37.90.0	この年 ▷ 落語家三遊亭円太郎、高座でラッパを吹き乗合馬車の真似をする。円太郎馬車の称呼はこれに由来。
4月上り高。			
桜之町	女身振狂言(杉本五兵衛) (夷谷座)	437.15	
	西洋明鏡(桧垣 与市)	11.81	
	昔 晰(高橋辰治郎)	199.30	
	男 身 振(永井丈治郎)	939.73.5	
	講 談(遊津伊之助)	10.63	
中筋町	演 劇(大谷半治郎)	1,445.16.7	
	東側講釈(湊 辰之助)	71.25.0	
	西洋明鏡(島口 せい)	55.25.0	
	錦かげ絵(藤井 源助)	36.59.0	
	講 釈(鈴木 ゆく)	40.89.0	
	昔 晰(広瀬 さき)	30.30.0	
	曲 ぶ き(河村猪之助)	77.96.0	
	義 太 夫(竹島 栄蔵)	36.43.0	
中之町	演 劇(宇治嘉太夫)	1,232.85.0	
	生 人 形(杉谷善兵衛)	158.73.0	
	講 釈(小川 りせ)	58.50.0	
	浄 瑠 璃(奥井 栄助)	109.53.0	
	手 品(桑島佐兵衛)	81.67.0	

京	都	府
1・一 谷清五郎女学校弦歌教師任命。 府立学校沿革誌		夫・玉造・豊松東十郎・玉助・紋十郎。 番附(大阪図)
2・23 神宮教会(寺町四条下)で、狂言盡開 催。 西京新聞 2・20		9・9～ 1週間、浄教寺(寺町四条下ル)で 平重盛700年忌建碑式を挙行、平家演奏。 大阪日報 4・30
2・一 南側芝居、「菅原・名筆反魂香・檀浦 月景清」芝翫・松太郎・児太郎・玉芝・小猿治・ 友三・鶴五郎・和橋・与作・梅太郎・滝十郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻		10・一 南側芝居、「敵討高砂松・天網嶋操鏡・ 播州皿屋敷・天保水滸伝」珊瑚郎・寿三郎・みん し。 歌舞伎年表(伊原)7巻
2・一 北側芝居、「伊賀水月・花競芦都産・ 勝鬨孝源氏」延三郎・雁治郎・寿三郎・市十郎・ 紫琴・福助・雀右衛門・姉川仲蔵。 同上、番付		11・一 南側芝居、「東海道佐誉中山・兄弟碁 盤白石・撮紋鮮血染野晒」右団次・多見蔵・小団 次(初上り)。 同上
3・1～6・8 第10回博覧会開催、本年より 大宮・仙洞御所の使用不可となり、御苑東南地域 に会場新築、附博覧を余興と改称、表裏千家・藪 内宗匠の茶会、有志の囃子狂言あり。 博覧協会五十年紀要		12・一 南側芝居、「太功記・白石嘶・対面」 幫間連の芝居。 同上
3・19 道場芝居、「小栗外伝」嵐橋三郎・中 村仙昇。 大阪日報 3・17		この年 ▷ 都下小学科目に唱歌科を置く、但し実施を 見ない。 京都府教育雑誌 87号
3・一 東向芝居、「千代萩・法界坊・近江源 氏」長崎俳優、中村福栄・中村福松・中村梅之丞 ・高三郎・芝女松・みどり・男女介・益三郎。 西京新聞 3・4		▷ 一指斎宗守、官休庵の祖堂・茶室・庭の一 部再建。 京の茶家
3・一 北側芝居、「仮名手本忠臣蔵・奥州安 達原」亀松・玉松・玉七・玉治・玉介。 番附(大阪図)		
3・一 錦天神上棟式、近来の賑、先斗町、祇 園、西陣より山車曳き出す。 大阪日報 3・25		
4・12 下加茂神社御蔭祭再興、東遊・倭舞行 う。 大阪日報 4・16		
5・7 演劇の許可手続、稽古立会をやめ、筋 書提出に改む。 東京日日		
5・一 千本通芝居、「浅草靈験記・鬼一法眼 三略巻・花洛西名所」市川助寿郎・実川百々之助 ・中村嘉十・嵐巖笑・中村駒之助・実川延五郎・ 嵐団之助・中村駒三郎、作者佐橋富三郎・玉助。 番附(大阪図)		
5・一 南側芝居、「神靈矢口渡・倭仮名処女 庭訓」多見蔵一座。 西京新聞 5・14		
6・一 北側芝居、「金剛力誓礎・大経師昔暦・ 釣狐恋懸畏」延若・延三郎・雀右衛門・芝雀・璃 笑・菊蔵・嵐みんし・芦雁。 番附(大阪図)		
6・一 南側芝居、「三国一富士田囃・恋女房 染分手綱・恋飛脚大和往来・高橋於伝毒婦説」市 川滝十郎・実川延童・嵐美寛・中村霜五郎・実川 百々之助・嵐璃橋之助・中村梅太郎・中村翫十郎。 同上		
7・15 盆踊禁止解除。 布達		
8・一 北側芝居、「木下蔭挾間合戦、近頃河 原の達引」竹本越路大夫・津大夫・重大夫・弥太		

参	考	日	本
		2・一 大阪道頓堀六座、明13上り高。 総計91,536円84.3(内、戎座106日30,028円、中 の芝居153日21,835円41.7、角座105日27,553円20、 弁天座263日9,253円98、高津町一番地芝居150日 45円28.6。 南区所在寄席 31ヶ所の上り高、12,031円16、 遊戯場24ヶ所 2,442,22.8。 朝日 明14・2・22、24	
		3・一 音楽取調掛第2回伝習生欠員7名募集。 6世富本豊前大夫(51歳)応募。	
		3・一 大阪越後町に新町座開場。	
		4・一 岩倉具視ら能楽会創立。芝能楽堂開設。	
		7・一 宮中陪食に際し、初めて歐洲管絃楽演 奏。	
		9・一 3世山勢松韻、箏曲取調掛に任命、音 楽取調掛に出仕。	
		11・一 2代目河竹新七隠退、66歳、新七3代 目を竹柴金作に譲り、古河黙阿弥と改称。	
		11・一 小学唱歌集第1篇刊。(音楽取調掛教 材の33歌曲)。	
		この年 ▷ 1世坂東寿三郎・3世瀬川如臯・3世杵屋 佐吉・3世三遊亭円生・4世野沢吉平衛没。	

京	都	府
<p>1・一 南側芝居、「日蓮大菩薩 真実伝・朝日新聞春朧夜」福助・巖笑・梅太郎・芝鶴・琥珀郎・珊瑚郎・瀧十郎。(30日千秋楽)。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>1・一 道場芝居、「飛馬始春寿・女書生繁」琥珀郎・橋三郎・三五郎。 同上</p> <p>1・一 三吉艾を女学校八等助教、伊藤よねを八等授業補に任命。(10月、三吉を、職名改正に伴い、御用掛兼三等教諭に補す。伊藤を唱歌取調として東京音楽取調所へ留学させる。⁽¹⁾ 府立学校沿革史</p> <p>2・2 道場芝居、「忠臣蔵十二時・七変化」橋三郎・松太郎・柿川仲蔵。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>2・一 東向芝居、「菅原・五人男・大経師」市川三十郎一座。 同上</p> <p>3・一 道場芝居、「敵討蒼兩刀・伽羅先代萩・英勇鶴物語」嵐栄治郎・尾上多三郎・嵐三京・叶昇寿・松田太三郎・中林竹之丞・片岡蝶十郎。 番付(大阪図)</p> <p>3・一 丸太町迎賓館内に能舞台新築計画。 大阪日報 3・11</p> <p>5・一 演劇その他税率改正⁽²⁾(上り高7%を10%に)。 京都新報 5・31</p> <p>6・4 金剛能月次会、千作、冷泉の新作「郭公」を勤む。 京都新報 6・6</p> <p>6・一 南側芝居、「忠臣蔵・比翼鳥辺山・安達原・恋飛脚大和往来」時蔵・正朝・八百蔵・百々之助・歌之助・鰻十郎・助蔵・駒之助。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>6・一 北側芝居、「鏡山・極彩色娘扇・一ノ谷・同計略花吉野山」猿之助・雁治郎・紫琴・市十郎。 同上</p> <p>7・14 道場芝居、「先代萩」名古屋、長崎からの俳優一座開場。 京都新報 7・14</p> <p>7・23 北側芝居、三絃曲引、錦影絵、声色など諸芸大会開場。 京都新報 7・23</p> <p>7・26 八阪神社拜所で奉納宵能、「翁千歳三番叟・高砂」片山晋三、「橋弁慶」金剛謹之助、「草紙洗小町」片山晋三、「鉢木」林喜左衛門、「夜討曾我」浅井織之丞。 京都新報 7・21</p> <p>8・15 南側芝居、「千本桜・彦山・時文月恨鯨鞘」正朝・時蔵・鰻太郎・しうか・巖笑・里朝・家女・松寿・百々之助・鰻九郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>8・一 道場芝居、「接木根岸礎・信州川中島・浜松風須磨写絵・隅田春妓女容性・壇浦兜軍記・与話情浮世横櫛」市川小松・市村寒治・浅尾花十・沢村田満治・坂東牧治・市川小蝶・市川駒栄・市川八重治。 番附(大阪図)</p>	<p>9・1 金剛能楽堂月次会。 京都滋賀新報 8・29</p> <p>9・15 稲荷神社能舞台建設、舞台開能楽、大阪平瀬亀之助「小鍛冶」、伊丹小西新右衛門「道成寺」舞う。 京都滋賀新報 9・9</p> <p>9・一 金剛能楽堂、謹之助「道成寺」開曲。 京都滋賀新報 8・29</p> <p>9・一 新京極大谷座(太夫元大谷半次郎)。「舗草曾我・筑紫礎・双蝶々・曾根崎・扇屋」鰻十郎一座。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>10・一 北側芝居、「花雪佐倉曙・福在原景図、大倉閨睦言・雙面手向発心」市川寿太郎・坂東太郎・中村玉治郎・嵐与勘平・松尾猿之助・三樹竹五郎・嵐雛之助・浅尾工左衛門。 番附(大阪図)</p> <p>10・一 大黒座、「小栗草紙・鬼一・接木根岸礎・左小刀」鰻十郎一座。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>10・一 夷谷座、「天一坊・安達原」名古屋の俳優一座。 同上</p> <p>11・一 北側芝居、「北陽梅金沢評定・鳥迫於松海上話・神童矢口渡」市川荒五郎・中村駒之助・実川正朝・中村芝翫・中村福助・中村梅太郎・嵐巖笑。 番附(大阪図)</p> <p>11・一 南側芝居、「盛名橘北国奇談・物ぐさ太郎」嵐橋三郎・延三郎・雀右衛門・延若。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p>	

参	考	日	本
(1) 三吉艾、山口県士族、府小学校教師、府学務課属、第二高等小学校長を歴任、明15師範学科取締に東京師範学校に留学、傍ら音楽取調掛に通学音楽の伝習を受けた。京都に帰り、唱歌科の実施を計り、明19講習会を起し、多数の唱歌科教師を養成した。伊藤よねも同時に音楽取調掛に留学、伝習を受けた。 京都府教育雑誌、明 32・7(87号)			2・17 警視庁、劇場取締規則布達(劇場は東京において十座を認可、俳優は願出鑑札を受けらる)。 歌舞伎年表(伊原)7巻
(2) 俳優2円50銭、遊芸師匠1円50銭、遊芸稼入2円、幫間7円、芸妓4円50銭一以上月税。 人寄席、1等50円(年間上り高1,000円以上)			2・一 講釈師馬鹿林鈍翁不敬事件(鈍翁は土佐の自由民権運動家、政治講談の元祖と云われる。1・22 玉水新地芝居小屋で通俗民権百家伝講釈中「天子は人民より税を絞って独り安座す。税を取りて、上座に位するは天子と私の二人なり」と談じ、不敬罪に問われたが、無罪。 高知新聞 明15・2・9
2等40	700		2・一 洋楽協会公開管絃演奏会開催。
3等30	500		6・一 大阪南地島の内声辺踊「北陽曾根崎浪花踊」発足。
4等20	200		6・一 滋賀県四の宮町演劇場再建着手。 京都新報 6・23
5等10	200未満		7・一 メーソン帰国。
			8・一 音楽取調掛伝習生規則改正、男子に限る。修業年限4カ年。
			11・18~19 雅楽稽古所、同所で大演習会挙行。一般の来聴許可。
			この年
			▷ 矢野文雄『経国美談』刊。この頃から政治小説流行。
			▷ 「読売壮士」自由演歌出現、流行。

京	都	府
<p>1・一 南側芝居、「乗掛合羽伊賀駅・初檜雪振袖・廓文章」宗十郎・橋三郎・雁治郎・若松・みんし・雁正・松太郎・琥珀郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>1・一 北側芝居、文楽座越路太夫一座、紋下披露興行。「忠臣蔵・安達原」越路・重・楠・住・玉造・玉助・紋十郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻、番附(大阪図)</p> <p>1・一 東向芝居、「恋飛脚大和往来」尾上多三郎・中村金十郎・浅尾十郎ら。西京新聞 1・20</p> <p>1・一 伏見芝居(興行人酒井長之助、「菅原伝授手習鑑・恋飛脚大和往来」中村千寿郎・中村福丸・市川紅五郎・中村千丈・三樹竹五郎・片岡当久太郎・中村千雁・坂東豊丸。番附(大阪図)</p> <p>1・一 金剛南陽社催能。西京新聞 1・25</p> <p>1・一 葎屋町元誓願寺下興行席、綾丸・万蝶一座俄興行。西京新聞 1・28</p> <p>2・2~4 北側芝居、祇園新地芸妓の大寄芝居開催。西京新聞 1・26</p> <p>2・11~12 片山九郎右衛門能舞台新築(柳馬夷川上ル西側)なり、観世清孝・福王繁十郎を招いて舞台開き催能。野々村、能楽古今記</p> <p>3・一 南側芝居、東京・名古屋合同女芝居興行。昼「出世太功記・義士銘々伝・朝比奈釣狐」夜「桂川連理柵・恋女房・姫山姥」東京、尾上菊治・尾上林八・沢村紀久美・岩井金八・中村佐久吉・中村芝佐吉、名古屋、篠塚大吉・篠塚礼吉・中村三津吉・実川京司・大川勝治・大川春吉。(4月二の替り)。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>4・5 道場芝居、名古屋俳優市川市鶴・嵐徳次郎・沢村国三郎一座、「高根雪伊達実録・東土産夜鷹煙草」狂言脚色面白く、俳優腕達者大入期待。京都絵入新聞 4・5</p> <p>4・一 新京極蛸薬師興行席、生駒幸蝶軽業興行。京都絵入新聞 4・27</p> <p>5・13 金剛流稲荷神社能舞台新築祝能奉納(14日茂山社中狂言盡奉納)。京都滋賀新報 5・9</p> <p>5・16 観世会能会開催。京都滋賀新報 5・10</p> <p>5・19 金剛・茂山、八坂神社能狂言奉納。 同上</p> <p>5・19 道場芝居、「吉原百人伐・一谷嫩軍記・大岡菅の裁判・金比羅利生記・四谷怪談夢夜話」中村喜代三・嵐瑠蔵・嵐維之助・中村芝九郎・尾上多見蔵・中村千鶴・中村芝之助・嵐橋十郎。(多見蔵88歳で陣屋熊谷を演じ大喝采)(4,590円で某が小屋を買取り場内修繕)(6月二の替り)。 番付(大阪図)、読売 6・9 京都滋賀新報 5・13、6・22</p> <p>5・20 南陽舎能楽、茂山忠三郎催主。 京都滋賀新報 5・10</p>	<p>5・29 洋々社⁽¹⁾春季大会妙心寺方で開催。(午前9時~午後6時、北垣知事初め170人参会)。 京都滋賀新報 5・29</p> <p>6・一 南側芝居、「明慈鳥反喃講談(能進・諺蔵による明鳥の改作)・入梅晴朝日新聞(新内出語り)三五郎・卯三郎・巖笑。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>7・8 観世舎月次会。京都滋賀新報 7・4</p> <p>7・16 南陽舎、金剛と茂山の社中乱能開催⁽²⁾。 同上</p> <p>7・19 御苑内白雲神社へ管絃奉納。 京都滋賀新報 7・22</p> <p>7・24 祇園祭山鉾巡行に、鈴鹿山、過日火災で胴の用木焼失し、本年不参加。 京都滋賀新報 7・20</p> <p>7・28 松尾神社御田能に金剛流(謹之助)出勤。(例年23日、この年岩倉公死去のため延期)。 京都滋賀新報 7・27</p> <p>8・一 金剛能舞台修繕竣工月次会を兼ね舞台開き能会開催。 京都滋賀新報 7・1</p> <p>9・1 坂井座(現松竹座)身振狂言座であったが、櫓許可、演劇場となる。⁽³⁾ 京都滋賀新報 8・28</p> <p>9・1 北側芝居、文楽越路太夫一座、「大江山・本朝廿四孝・隅田川恋佛」開場。 京都絵入新聞 8・29、京都滋賀新報 8・28</p> <p>9・26 加茂葵祭再興のこと太政官より府へ布達(明3から中絶)。 京都絵入新聞 9・27</p> <p>9・一 河島清信座(千本一条上)「復興後日梅・娘緋鹿の子・貞操新宿嘶」蝶十郎・仙昇一座。(10月二の替り)。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>9・一 自由童子川上二次郎に対し、知事から1ヶ年間国内で政治講談を禁ずる内務省達を伝達。 京都絵入新聞 10・16</p> <p>11・14 重陽社(藤村性禅師中心の平曲会、最近結成)、浄教寺(寺町四条下)で重盛法楽平曲会開催。 京都絵入新聞 11・13</p> <p>11・一 南側芝居、「短夜夢朝日手枕(朝日新聞の忠僕松助伝)・新種園朝顔」寿三郎・琥珀郎・金作・芝之助・福助・巖笑・市十郎・雀右衛門。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>11・一 北側芝居、「花雪歌清水・娼妓誠開花夜桜・織合襷袢錦・梅ヶ枝無間鐘・関取千両幟」延若・宗十郎・延三郎・新四郎・多見蔵・璃寛・みんし。 番付(大阪図)</p> <p>11・一 道場芝居、「絵合太功記・加賀見山女雛形・三国伝来朝袂」尾上松之助・尾上三朝・実川若松・大谷友吉・尾上梅義・中村児友。 番附(館蔵)</p> <p>12・一 南側芝居、顔見世、「小笠原諸礼忠孝」延若・橋三郎・雁治郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p>	

参	考	日	本
(1)	5月初め結成、古典芸能、伝統芸術を楽しむことを目的とする会と思われる。その種類は、詩歌披露(冷泉家門流)・管絃・神楽・東遊・大和楽(旧伶人)・今様舞(冷泉家門流)・明清楽(松月園)・七絃琴(矢田)・蹴鞠(小林)・一絃琴・八雲琴・一節切・木琴・廿五琴・香道・連歌・俳諧等の月例開催、7月に小会開催。	1・一	団十郎発起求古会誕生、活歴劇促進。
(2)	金剛が靉猿を勤め、茂山が三井寺、小寺が土蜘蛛を舞う。	1・一	文楽、越路・団平・玉造の三者櫓下となる。
(3)	新京極にこれまで歌舞伎や人形芝居を上演できる演劇場は、道場と東向との2芝居小屋しかなかった。それらの小屋には演劇場許可の印として正面高く櫓を建てた。坂井座はこの時から芝居を上演できるようになった。それまでは中村小陣が座頭となり身振狂言を興行していたので小陣座とも通称されていた。櫓許可を得て改造し、9・1「忠臣蔵」で開場。小陣一座の身振狂言は目鏡亭(坂井座の東)に移る。	2・24	東京麹町女学校で歌学唱歌授業技倆発達し、伶人の伴奏で唱歌会開催。読売新聞 2・25
		2・一	海軍省雇教師エッケルト、音楽取調掛教師任命。
		2・一	文部省『小学唱歌、第二篇』刊。
		7・一	岩倉具視没、59歳。
		10・一	坪内逍遙訳『ジュリアス・シーザー』刊。
		11・28	鹿鳴館開館式、午後8・30。皇族・大臣・参議ら内外貴紳500~600人参集。 郵便報知 11・30
↗	12・一 道場芝居、「小栗判官・千代萩・蝶鳥追」千鶴・多蔵一座。 京都滋賀新報 12・27	12・一	東向芝居・梅朝一座。 同上
		12・一	夷谷座・女役者一座。 同上
		12・一	坂井座、太郎・駒之助・正朝一座、「天満宮菜種御供・夢結蝶鳥追」。 同上
	この年 ▷ 虚無僧尺八の明暗教会設立。会長九条公、京都支部長明暗流36世勝浦正山。演劇百科大事典		

京	都	府
<p>1・1 坂井座、興行人西尾善吉、「天満宮愛梅桜松・名筆反魂香・夢結蝶鳥追・撰州合邦辻・由良湊千軒長者」坂東太郎・中村駒之助・嵐徳三郎・嵐鱗子・実川正朝・中村福之助・松田太三郎・松田太蔵。 番附(大阪図)</p> <p>1・15 道場芝居、「仮名手本忠臣蔵・義士銘々伝・常盤松芽生源氏・増補雪月花有馬湯治・越ヶ谷」中村喜代三・実川若松・市川荒太郎・中村芝喜三・三樹竹五郎・中村富栄。 京都滋賀新報 1・13</p> <p>1・一 南側芝居、「弘法大師一代記・妹背山」嵐橋三郎・市川市十郎一座。 京都絵入新聞 1・27</p> <p>1・一 金剛流、講を組織。⁽¹⁾ 京都滋賀新報 1・16、12、20</p> <p>2・17 観世舎月次能。 京都滋賀新報 2・10</p> <p>2・一 道場芝居、「花街模様劇福妻・鎌倉三代記・綱模様灯籠花桐・源平流しの枝」中村靄丸・片岡靄太郎・市川市寿・嵐橋利之助・実川小延童・実川八百寿・市川荒丸・中村千代松。 番附(大阪図)</p> <p>3・21 鳥原太夫道中、東寺で弘法大師1050年遠忌を営むこの日に、また13日には博覧会余興として挙行。 京都絵入新聞 3・15</p> <p>3・26 東寺弘法大師1050遠忌に能楽奉納。⁽²⁾</p> <p>3・一 道場芝居、「姐妃百物語・絵合太功記・双蝶々曲輪日記・織合鹿兒島土産・廓文章」市川滝十郎・実川百々之助・尾上梅之丞・実川若松・中村芝鶴・坂東寿昇・三樹竹五郎・中村靄之助。 番附(大阪図)</p> <p>3・一 南側芝居、「廿四孝・那須与市 海硯・勸進帖・新模様御詠綱鳴」雁治郎・右田作・珊瑚郎・玉猿・芝之助・巖笑・梅太郎・猿之助・福助・政治郎。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>4・1 都踊開幕、場内(舞台2、見物席、木戸口1)、花見小路、祇園町にアーク灯点火。 京都絵入新聞 3・12</p> <p>4・3~4 稲荷神社能楽奉納。</p> <p>5・3 藤村性禅の重陽社、南禅寺天照庵で奥村検校追善平曲会開催。 京都絵入新聞 4・23</p> <p>5・22 博覧会余興に、招月社中池塘別亭で明清楽演奏。 京都博覧会五十年紀要</p> <p>5・26 池坊専正、府女学校において、三条実視太政大臣参観の際、格調高い典型的三瓶を生ける。 いけ花歴史年表</p> <p>5・一 南側芝居、北野神社勸進興行、昼「天神記・八犬伝」夜「天満宮・新皿屋敷」橋三郎・みんし・璃寛・紫琴・宗十郎・太郎・松太郎・荒五郎・延若。神社の梅謡講社続々と総見。 歌舞伎年表(伊原)7巻、京都絵入新聞 5・14、16</p>	<p>6・一 北側芝居、「雨夜伽曇譚・白浪五人男」右団治・小団治・雀右衛門・蝦太郎・正朝・蝦十郎・中村芝雀、坂東三津三。 番附(大阪図)</p> <p>6・一 坂井座、京都大阪若手俳優一座、「岩見瀉浜辺逆浪」を脚色。 京都絵入新聞 5・27</p> <p>7・13 坂井座開場、「玉兎梅由縁彩色・雁文月船越」正三郎・新駒・松次郎・璃久七・小円二・梅之丞・鹿昇・鹿之助・蝶十郎。 京都絵入新聞 7・10</p> <p>8・一 坂井座、桂文団治・米団治・正団治・新内軽口など大一座興行。 京都絵入新聞 8・7</p> <p>8・一 六斎念仏、今年不景気開運のため、芸妓俳優のような衣裳を着け、汐汐・大江山・安宅など鳴物入りで歩く、みごとな様子。 京都絵入新聞 8・20</p> <p>9・一 北側芝居、「小笠原諸礼忠孝・撮絞鮮血野晒・所作事」仙昇・坂東豊作・山下金作・市川市六・三樹伝五郎・実川新四郎・中村翫雀・尾上多井蔵。 番附(大谷)</p> <p>10・一 南側芝居、「后月大掛松・明渡誉陣扇・是茗荷奇代良菓」右団次。 歌舞伎年表(伊原)7巻</p> <p>11・一 坂井座、座主西尾善吉、興行人小西佐七、「四季模様白縫譚・近江源氏先陣館・浅草靈験記・木偶壳独楽姿身」仙昇・延雀・中村小陣・中村新駒・嵐橋録・市川寿太郎・市川荒五郎・松尾猿之門・実川八百蔵。 番附(館蔵)</p> <p>11・一 道場芝居、興行人宇治嘉太夫、「朝日結壺碑・文覚鳥羽恋塚・鶯衛月白浪」嵐璃笑・嵐重三郎・実川若松・中村芝之助・中村珊瑚郎・福助・市川滝十郎。 同上</p> <p>12・31 京都御所質所(内侍所を今回改名)で31日夜追儺の節会を執行、昔の通り庶民の参拝許可。 朝野新聞 12・26</p> <p>12・一 大黒座(顔見世)「柿木金助黄金鯨・大経師昔暦・神霊矢口渡・難山姫捨松」嵐三五郎・嵐璃幸・市川鳶之助・実川延五郎・嵐吉三郎・坂東太郎・尾上多三郎。 番附(館蔵)</p>	

参	考	日	本
(1)	1月から毎月20銭づつ1ヶ年払込む、加入者は例月第一日曜日に催す月次会に畳一帖の席をとり時に一ヶ年分払込めば上等の見所を占めることができる。加入者続々。 京都滋賀新報 12・20	1・一	大阪稲荷境内に彦六座開場。
(2)	「舍利」大倉玉之助、谷林善兵衛、「高野物狂」南栄八郎、竹村清兵衛、「融」金剛金之助、佐々木滋次郎、「羅生門」種田嘉三郎、鈴木禎次郎、他仕舞狂言、近年稀な盛会。 京都絵入新聞 3・25	1・一	金剛右近没、70歳。
		2・一	大阪角座、新富座に模して新築、開場。
		3・一	音楽取調掛『小学唱歌第三篇』刊。
		4・一	大阪、浄瑠璃熱高騰、白花連・旭連・此花連・浪花連など称する鑑賞団体多く生れる。 東京日日 4・12
		6・一	全国芸能人数一遊芸師匠3,336人、芸妓11,880、遊芸稼人7,689、俳優3,286。 京都滋賀新報 1・8
		7・13	市川団十郎教導職に任命。 西京絵入新聞 7・10
		9・一	大阪彦六座博労町稲荷神社境内に開業、竹本駒太夫70余歳、一世一代出演、団平三番叟を弾く。文楽座は御霊神社境内に移り、越路太夫出演開場。 西京絵入新聞 9・20、新聞集成
		9・一	鹿鳴館園内で本月上旬から、毎水曜日に陸軍々楽隊、毎土曜日に海軍に楽隊が夕5時~7時演奏。東京クラブ会員は家族同伴入場許可。 東京日日(新聞集成)
		10・一	式部寮雅楽課、式部職雅楽課と改変。
		10・一	旧楽人54家に、雅楽道に精励、子孫を養成し、家名を損しないよう努めることが急務、その保護の趣旨で毎年85円宛御内附金下賜。
		11・一	ルルー、陸軍々楽隊雇教師任命。
		11・16~17	猿若座、猿若町から浅草西鳥越町に移転新築落成、開場式、団十郎「北条高時の天狗舞」初演。
		12・一	浅草六区開く。
		この年	▷ 演劇改良の声高まる。
			▷ 三遊亭円朝の「怪談牡丹灯籠・鏡ヶ池操松影」刊。
			▷ 西川虎吉、純国産オルガン製作、文部省検定し、採用。
			▷ 宝生流、松本金太郎静岡から家族をまとめ、猿若町に移り住む(明15一度単身上京能楽界の趨勢を見定めて決心)。

京	都	府
1・一 南側芝居、「仮名手本忠臣蔵」嵐璃寛・中村宗十郎・嵐橋三郎・実川延若・実川延三郎・坂東太郎。番附(館蔵)	6・14 片山観世舎能会。日出 6・7	6・20 北側芝居、「浅間嶽面影草紙・釜淵 双綴巴・鐘鳴今朝噂」市川鰻十郎・市川市十郎・嵐橋三郎。日出 6・17
2・一 道場芝居、「岩見重太郎・彦山権現 誓助刀・妹背の門松・天満宮菜種御供」嵐三京・嵐佳之助・嵐重三郎・中村高之助。同上	6・21 金剛南陽舎月次能。日出 6・12	7・15 祇園祭礼は本年近畿大水害のため中止して鉢町積立金は義捐に使う議も出たが、災害の年こそ祭礼を行うべきで、義捐金は醸出済ということで祭礼挙行に決定、この日神輿渡御。山鉢は午前10時巡行出発。日出 7・15、19、22
4・15 祇園座新築着工、地築祭。(6・16柱立式。11・8開場式、9日初日)。日出 6・18、11・8	7・21 島原太夫道中挙行。(5・21の常例を延期。日出 5・26	7・一 上京第三聯合小学生徒大試験卒業証書授与式に同志社女学校生徒がオルガン奏楽。日出 7・16
4・17 南側芝居、彦六座の引越興行、10日間、毎日芸題替。日出 4・15	8・8 和泉流狂言師、三宅庄市没、64歳。近畿能楽記	8・8 和泉流狂言師、三宅庄市没、64歳。近畿能楽記
4・20 新京極大黒座、「仮名手本忠臣蔵・日高川入生英王・蘭蛇待新田系図」実川芦雁・浅尾大吉。日出 4・17、番附(大阪図)	9・6 金剛南陽舎月次能。日出 8・27	9・6 金剛南陽舎月次能。日出 8・27
4・一 京角座(旧道場芝居)、「豊臣世千鳥聞書」市川右団次・市川鰻十郎・中村福丹・実川八百蔵・市川小団治。日出 4・15~17	9・8 京角座で六齋念仏興行。日出 9・9	9・8 京角座で六齋念仏興行。日出 9・9
4・一 都踊(4・1~27日)入りわるく、1~15日の売上券16,981枚。日出 4・17	9・9 坂井座に市川市十郎 ⁽²⁾ 出演好評。	9・9 坂井座に市川市十郎 ⁽²⁾ 出演好評。
5・2 金剛社中稲荷神社能楽奉能。日出 4・28	9・一 南側芝居、「君臣船浪宇和島・江戸紫の比翼粉・鬼一法眼菊畑」雀右衛門・福助・阪東春三郎・巖笑・嵐璃幸・嵐橋之助・嵐吉三郎・中村珊瑚郎・沢村百之助。歌舞伎年表(伊原)7巻、日出 9・20、25	9・一 南側芝居、「君臣船浪宇和島・江戸紫の比翼粉・鬼一法眼菊畑」雀右衛門・福助・阪東春三郎・巖笑・嵐璃幸・嵐橋之助・嵐吉三郎・中村珊瑚郎・沢村百之助。歌舞伎年表(伊原)7巻、日出 9・20、25
5・3 観世社中春季別会能。同上	10・1 大西座(六角南)小半一座、新作俄興行。日出 10・1	10・1 大西座(六角南)小半一座、新作俄興行。日出 10・1
5・3 坂井座、「曾我物語」。日出 4・22	10・8 祇園座、祇園新地に新築落成、開場式。9日初日、南側芝居に出演していた雀右衛門・福助一座と八百蔵・雁治郎・正朝らと市十郎加入。「小笠原流義忠孝・日出連載都育東写絵」。入場料、昼、棧敷1円、場40銭、通券10銭、夜85銭、35銭、10銭。大入の景況。(通券は不都合を惹起すと改正。昼、棧敷170銭・場70銭・追込場10銭、夜160銭・65銭・10銭。日出 10・23、31、11・3、8、13	10・8 祇園座、祇園新地に新築落成、開場式。9日初日、南側芝居に出演していた雀右衛門・福助一座と八百蔵・雁治郎・正朝らと市十郎加入。「小笠原流義忠孝・日出連載都育東写絵」。入場料、昼、棧敷1円、場40銭、通券10銭、夜85銭、35銭、10銭。大入の景況。(通券は不都合を惹起すと改正。昼、棧敷170銭・場70銭・追込場10銭、夜160銭・65銭・10銭。日出 10・23、31、11・3、8、13
5・9 京角座、北側芝居で興行の名古屋座を買い興行(人気薄)。日出 5・5、19	10・17 茂山社中豊国神社へ狂言奉納。日出 9・30	10・17 茂山社中豊国神社へ狂言奉納。日出 9・30
5・12 伏見稲荷祭、参詣群衆夥しく、大仏前から神社に至るまで露店連る、夜には、新京極劇場寄席超満員。日出 5・14	10・31、11・1 醍醐天満宮神事能。金剛・観世隔年交替で出勤、本年は観世舎。日出 10・24	10・31、11・1 醍醐天満宮神事能。金剛・観世隔年交替で出勤、本年は観世舎。日出 10・24
5・15 葵祭(昨年復興)、見物人多く昨年の倍。日出 5・17	10・一 大黒座入場料2銭の安芝居、「大江山鬼退治・桂川連理柵・関東千両幟」余程改良し、押売などせず、稀な大入。日出 10・30	10・一 大黒座入場料2銭の安芝居、「大江山鬼退治・桂川連理柵・関東千両幟」余程改良し、押売などせず、稀な大入。日出 10・30
5・21 金剛流南陽舎月次能。日出 5・23	10・一 阪井座、二の替り、昼「箱根靈験蟹仇討」夜「国姓爺合戦」市十郎和藤内で出演。日出 9・27	10・一 阪井座、二の替り、昼「箱根靈験蟹仇討」夜「国姓爺合戦」市十郎和藤内で出演。日出 9・27
5・24 片山観世舎月次能。日出 5・24	11・1 坂井座、「復咲後日梅・加島屋騒動持丸長者」中村仙昇・中村福円・中村小陣・中村成雀・坂東三津三。(3日の天長節に新京極入出凄く、坂井座超満員)。日出 10・27、11・5	11・1 坂井座、「復咲後日梅・加島屋騒動持丸長者」中村仙昇・中村福円・中村小陣・中村成雀・坂東三津三。(3日の天長節に新京極入出凄く、坂井座超満員)。日出 10・27、11・5
5・一 久保田錦隣子・美紅舎紫梅、竹の内静枝・白井蒲汀・雪の家巴ら観劇会を作り、演劇批評を行っていく。日出 6・5		
6・4 南側芝居、「倭国魂朝日旗揚・傾城阿波鳴戸・大岡政談地蔵由来・恋飛脚大和往来」嵐佳寿(珥蔵改め)・嵐璃幸ら。同上		
6・4 県祭、参詣者ひきもきらず、宇治橋から神社御旅所まで3,703軒の露店出る。日出 6・7		
6・10 大黒座(元東向芝居)、「相馬太郎孝文談・何枝彼桜銭世中」 ⁽¹⁾ 、浅尾大吉・嵐璃徳・嵐三京・中村竹之助・中村新駒・中村のしほ・嵐万寿・阪東芝亀蔵。同上		
6・14 京角座、「西陣噂高樓・藍桔梗雁金五紋・鳴響丑刻鐘」嵐三五郎・実川菊蔵・市川雁治郎・市川寿太郎・松尾緑之助・市川滝十郎・実川延五郎・中村政之助・尾上玉之助・中村福三郎・松尾猿笑。日出 6・13		

参	考	日	本
(1) シェークスピア「ヴェニスの商人」を、宇田川文海がラム「沙翁物語」に依拠、新聞小説に翻案。勝諺蔵脚色。5月大阪戎座、宗十郎・寿三郎・延三郎・琥珀郎・友治・橋三郎・鶴助らで初演。趣向は江戸末期大阪を背景とした御家騒動を原作の筋書にかりたもので歌舞伎脚本の古典的作法を抜けない。日本における最初のシェクスピアものとして意義深い。非常な好評であった。大阪では6月にも朝日座で荒太郎・多見太郎・百々之助ら一座が上演(歌舞伎年表)した。同時に京都でも京住みと思われる大吉ら一座が上演したことは興味深い。		1・17 文部省音楽取調掛、東京教育博物館講堂において、取調掛教員・生徒の演習会開催。	
(2) 幕末・明治初年の頃錦天神で小屋掛芝居を行っていたが、尾上多見蔵に引立てられ市川市十郎の名跡を継ぐ。		2・9 音楽取調掛、音楽取調所と改称。本郷から上野公園に移転、(12月名称取調掛に戻り、大臣官房附属となる)。	
		6・8 音楽取調掛、上野公園内文部省新築館において演習会開催。フランス・ヴァイオリニスト、モーレル、山勢松韻・山登万和・山田貴松調・山登松齡・荒木古童三曲演奏。	
		7・20 音楽取調所卒業演習会開催。(全科卒業生、幸田延子ら3名、府県留学伝習生20名)。	
		8・一 太政官廃止、内閣制度制定、音楽取調所、音楽取調掛と改正。	
		9・一 初世延若没、55歳。	
		10・28 東海散士『佳人之奇遇』初篇刊。	
11・11 北側芝居、顔見世興行初日。「鏡山・吉野山・お半長右衛門」右団次・璃寛・鰻太郎。(千秋楽27日を29日に日延。入場料、昼、棧敷98銭・場56銭・割6銭、夜、85銭・48銭・5銭。日出、11・3、12、13、26		11・21 落語研究会開催。桂文之助発起、改良を計画。日出 11・20	
		11・一 大黒座、「敵討巖流島・鎌倉三代記・娘景清八島日記・本朝廿四孝」尾上梅朝・浅尾大吉・坂東あづま。日出 11・10	
		11・一 能楽にも改良の機運、神事能など深更に及ぶゆえ不都合と、南陽舎では委員を挙げて規則改正を推進。日出 11・20	
		12・4 坂井座、「加賀見山旧錦絵・雪花京都曙(日出新聞連載)・接木根岸礎」日出12・3、11入場料、棧敷61銭・出孫60銭・場45銭・割一人4銭5厘・通り1銭5厘。日出 12・3、11	
		12・5 大黒座、「伊勢音頭恋寝剣・義経千本桜・鏡山」嵐巖若・嵐璃蝶・山下金作、棧敷追込1銭5厘。同座は新京極で一番穢い小屋。日出 12・5	
		12・13 金剛月次能。日出 12・8	

京	都	府
1・1 坂井座、駒之助・仙昇・正三郎・大吉・福平・小陣一座開場（1・21日千秋楽）。 日出 1・1		6・30 京角座 ⁽³⁾ （元道場劇場）仙昇・正三郎・福平一座開場。日出 6・30
1・10 四条北側劇場、雁治郎・橋三郎・荒太郎・福円ら一座開場。日出 1・8		6・一 祇園座、中村璃童・中村高之助・嵐立花・嵐寿三郎・市川鯉十郎。番附
1・一 正月興行諸劇場寄席演目を競い、劇場は歌舞伎を、寄席は講談・落語・俄・新内・ヘラヘラなど諸芸を興行。日出 1・1		7・10 申楽クラブ臨時能会。日出 7・6
2・1 坂井座、仙昇ら一座に川上音二郎加入、「華魁蒼八総・南洋嫁島月」 ⁽¹⁾ （川上音二郎の出しもの）開場。日出 2・13		7・15 岩神座、祇園座の一座で開場。日出 7・7
3・1 四条北側劇場右団次・延三郎・鯉太郎・巖笑一座に東京下り岩井半四郎加入開場、「金沢評定・本朝廿四孝」。芝居茶屋に何やらと請求され、不人気、6日から追込5銭、場8分迄勝手次第とし、昼興行をやめ、切を「四谷怪談」に変更、人気回復し26日まで日延べ。日出 3・8、23		7・16 南側劇場改築落成、宗十郎・璃寛・和三郎・橋三郎一座開場。日出 7・15(広告)
3・20 申楽クラブ第5回例会能。日出 3・13		7・一 中竹座、尾上滝十郎・嵐佳丈一座興行。日出 7・7
3・一 上下京興行席数127・演劇場9・人寄席203。日出 3・11		7・一 祇園座、従前の一座で芸題替開場。日出 7・1
4・2 坂井座、中村福平・実川正三郎・市川右次丸開場。「石山軍記」。日出 4・2		7・一 盲啞院、2・7両日藤村繁三を聘し平曲教授開始。日出 7・14
4・8 御苑内（東南隅で）イタリア・チャリネ曲馬団 ⁽²⁾ 興行、（入場料1円・50・20銭）〔予想外大入、19日日延して幕〕。日出 4・8、4・19		8・1 新京極道場劇場文楽座、越路大夫ら一座開場。日出 7・23
4・30 中竹座（上京安居院前町）中村小陣・中村陣之助・中村陣三郎・中村陣若一座開場。日出 4・30		8・7 坂井座、納涼芝居開場、仙昇、実川正三郎一座、初日無料2日目から半額、団扇進呈。日出 8・6
4・一 近來児童がラツパを弄ぶが健康上有害につきやめるよう上・下京区役所から各戸長へ口達。日出 4・8		8・7 観世舎能会。日出 8・3
4・一 松林正円（伯円門下、三世円玉改メ）新京極千切家（四条上ル西側）で改良主義講談「文明東漸史・明治立志篇・安政洋行娘」など講談。日出 4・2		8・13 盆近く、例年の通り伏見近村の六奔念仏囃子方市中に散見。日出 8・14
5・3 夷谷座、女照葉狂言開場「廓道成寺」昼夜通し。日出 4・27		8・29 上・下京小学校オルガン設備したが教員不足、補充採用の学力試験を実施。志願者男1、女13。日出 8・24、28
5・5 祇園座、永く休業後、璃寛・琥珀郎・鯉十郎・八百三郎・福円一座開場。「大岡仁政録田葉粉屋喜八・二葉軍記阿古屋琴責・梅曆・戻り籠」。日出 5・3		8・一 大阪の上等俳優殆ど京都に移籍。 ⁽⁴⁾ 日出 8・25、28
5・7、10 祇園祭礼繰り上げ執行。（徳島県にコレラ発生、予防上夏祭を全て繰り上げまたは繰り下げ布達）。日出 4・8、30、5・6		8・一 坂東寿三郎一座25日祇園座興行打上次第岩神座に乗込。同一座はこのあと実川八百蔵加入し、坂井座へ出演（8月興行）。日出 8・21、8・27、30
5・15 上・下賀茂葵祭執行。日出 5・15		9・1 夷谷座修繕24日落成、開場。
5・22 壬生狂言開幕。日出 5・24		9・2 南座興行雀右衛門・雁治郎・延三郎・巖笑・珊瑚郎ら一座「当世書生気質（関根黙庵立案・勝諺蔵脚色）」初日。日出 8・30、9・1、番附
6・1 坂井座、浅尾朝七・尾上多三郎一座開場。同上		9・15 遊芸紹介所開業 ⁽⁵⁾ （12・20下京区役所営業差止）。日出 9・13、12・22
6・1 夷谷座、のし松・尾上梅暁・嵐佳久蔵一座開場。（22日替り狂言開場、由尾ら加入）。日出 5・31、6・18		9・一 日出に13日から連載の「情の分蘗」（女髪結お政殺し）諸興行場で脚色上演（大虎座の俄・福井座・京角座・堀川・一条千本・大仏・五条橋詰・京角座など）。日出 9・16、23、25
6・12 申楽クラブで茂山正虎追善能挙行。日出 6・10		10・2 祇園座大阪松島座一座、中村芝雀・実川松三郎・中村梅若・坂東豊作ら引越興行開場。日出 10・1
		10・3 坂井座、実川芦雁・嵐橋之助ら一座開場、初日木戸銭なし、土産物進呈。同上
		10・12 太秦広隆寺牛祭再興。日出 9・21
		10・一 船井・天田地方豊作を祝い素人若衆芝居ここかしこで興行。日出 10・15
		11・2 坂井座、市十郎・珊瑚郎・仙昇ら一座、この興行から10回分通し券発売（機敷1間6円・場3円）。日出 11・2

参	考	日	本
(1) 時事新報所載、小笠原孤島で製塩事業に辛苦した田中鶴吉実歴を山崎琴昇（新京極で馴染の講談師）の脚色したもの。改良演劇と銘打ったが素人の茶番狂言にも劣ると新聞評。（伊原・歌舞伎年表・7に詳細）。		1・20	日本音楽会設立。最良の音楽を拡張普及することが目的（3・17鹿鳴館で第2回演奏会）。
(2) チャリネを団長とするイタリア曲馬団、男女約50人で大規模。19日来日。（菊五郎、黙阿弥作「鳴響茶利音曲馬一幕」を千歳座で上演、大好評）。		1・一	東京電灯会社、初めて電灯実施（8月千歳座で点灯）。
(3) 時宗四条派の本山金蓮寺は四条と寺町に面して広い境内を構え道場と呼ばれ、江戸中期からここに設けられた芝居小屋はかなりの一座が出て道場芝居と云われて来た。座主は度々変り明17大阪角座々主大清に移り、それに因んで、3年間また座主が変るまで「京角座」と称した。また座主変り「道場」の名を復活したが、明25坂井座と改称。それは新京極三条下ル坂井座が明24座主西尾から離れて「常盤座」と改称。この西尾が「道場」座主として登場して「坂井座」と称した。この名は明33「歌舞伎座」と改称されるまで続く。		4・20	鹿鳴館で盛大な仮装舞踏会。大官・貴顕仮装を凝らして参会。大醜聞喧伝。
(4) 大阪では俳優の税金高く、4月から1等年80円・2等50・3等40・4等30・5等20・6等15・7等10・8等7・9等5・10等3・11等2、京都では一律月税70銭。大阪に留るもの右団次（1等）・嵐吉三郎（3）・尾上松之助（6）・市川右田作（7）ら。宗十郎ら89名が京都俳優となった。逆に下等俳優は大阪に移籍、大阪4区2郡に750余名を数えたという。日出 8・25、28		4・26～4	井上外務大臣邸で団十郎・菊五郎・左団次・芝翫出演の天覧劇。明治天皇26日、27日皇后、28日内外高官、29日皇太后観劇。
(5) 西石垣四条下、守能健吉郎外2、3人の発起、婚礼や宴会に興を添えるため、諸興行稼人や市中の芸能師匠を斡旋する。11月上旬、芸妓類似の行があるので差止めたが、看板の紹介所を取扱所に変更しなお紹介業を続けていたので断然差止を厳達、看板を撤去した。日出 9・13、12・22		6・9	花井お梅（浜町待合酔月の女将）、使用人八杉峰吉（箱屋）を刺殺。諸所で脚色上演。
12・3 四条北側劇場改築落成顔見世興行、雁治郎・雀右衛門・吉三郎・市十郎ら一座開場。好評。日出 11・29、12・9		10・一	茂山忠三郎義直没、75歳。
12・8 夷谷座・福井座、これまでの照葉狂言を廃し、純粹の演劇場に改正出願許可。日出 12・14		10・一	音楽取調掛を東京音楽学校と改称。
12・11 観世流歳末能会開催、片山晋三ら演能。日出 12・1		12・一	出版条例改正、脚本・楽譜も出版権獲得。
この年		この年	
▷ 御苑仮舞台で天皇・皇后観能。		▷ 山葉寅楠、風琴（オルガン）製造に成功。	
		▷ 黒田長知・池田茂政・前田利鬯・井伊直憲ら能楽保護請願書を宮内大臣に提出。	